

2023年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

2023年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

1. 2023年度 事業報告の概要

- 業績等
 - 収益
 - 前年度比で5.9%増加
 - サポートハウスココロネ住吉の2年目の稼働により増収
 - 介護職員等ベースアップ等支援加算（年度を通しての算定）
 - 新型コロナウイルス感染症及び物価高騰・水光熱費高騰に関する補助金
 - 稼働率
 - 入所系・居住系サービスでは、クラスターの発生等によりほとんどの施設が目標の99%以上を未達成となるが、前年度よりは改善傾向
 - 通所系サービスでは、徐々に利用者数も回復し、ほとんどの事業所で昨年度より稼働率が上昇
 - 訪問系サービスでは、コロナ後の新規利用者獲得等もあり利用者数は増加
 - 収支改善
 - 営業・広報活動の継続的な実施
 - 人員配置の適正化及び業務の効率化
 - 各補助金の活用
- サービスの質
 - 面会制限を解除し、対面でのゆったりとした面会を再開
 - 施設外イベントへの参加（体操教室・口腔機能（体力）測定会）
 - ご自身でのお買い物、食事等を楽しんでいただける外出行事を実施
 - 接遇面の向上を目的としたミーティング等の開催
 - 業務改善委員会の開催
- 人材の確保、育成
 - 研修の実施
 - E-ラーニングやオンラインを活用した研修会への積極的な参加

- 資格取得の為の研修会への参加及び支援
 - 「介護キャリア段位制度」におけるアセッサー講習の受講推進
 - 新入職員や介護未経験者に対する認知症介護基礎研修の受講推進
- 福利厚生の充実、働きやすい職場環境の提供
 - ICT環境の整備
 - 有給休暇・育児・介護休業制度等の休暇取得の充実
- 法人、グループ内の連携
 - 感染症発生時の連携体制の確立
 - コロナ禍における実地指導への支援
 - 加算算定基準及び法令遵守に関する支援
- 地域貢献活動
 - 地域の消防組合協力による救急救命講習の実施
 - 地域住民参加型避難訓練の開催及び防災テント設置等による福祉避難所作りの実施
 - 地域中学校への出前授業の実施
 - 近隣の団地での介護サービス相談会の開催
 - 地域住民と一緒に地域の清掃活動に参加
 - 小学生の総合学習の一環としての受入
 - 町民体育祭への参加
 - 地域支え合い活動として地域高齢者の買い物の移送車両提供に協力
 - 児童養護施設に手作りおやつをプレゼントする事業
 - 児童養護施設や地域での子供を対象としたアートレッスンの開催及び作品の展示
- 新規事業
 - 新規開設整備事業
 - 2023年6月 西新井まちの相談室（計画相談支援）
- 新型コロナウイルスへの対応
 - 業務継続計画の整備及び周知徹底
 - 日常的な感染対策に加え、研修や訓練の実施
 - 施設、設備の衛生管理や感染ラウンドの実施など感染対策の強化

- 新型コロナウイルス感染症に関する補助金
 - 東京都・横浜市・兵庫県・神戸市・徳島県・山口県
 - サービス提供体制確保事業補助金（介護サービス）

- 物価高騰・水光熱費高騰に関する補助金
 - 東京都
 - 介護サービス事業所燃料費高騰緊急対策支援金
 - 特別養護老人ホーム等物価高騰緊急対策支援金
 - 板橋区_介護施設物価高騰対策支援金
 - 町田市_介護サービス事業所等物価高騰対策事業者給付金事業
 - 足立区_物価高騰支援に係る障がい福祉サービス等事業所に対する特別給付金
 - 横浜市
 - 横浜市高齢者施設等物価高騰対策支援事業
 - 兵庫県
 - 高齢者施設原油価格・物価高騰対策一時支援金
 - 神戸市_物価高騰対策支援給付金（介護・高齢福祉）
 - 淡路市_高齢者施設原油価格・物価高騰対策一時支援金
 - 兵庫県医療機関等における原油価格・物価高騰対策一時支援金 「光熱費支援」
 - 兵庫県医療機関等における原油価格・物価高騰対策一時支援金 「食材料費支援」
 - 大阪府
 - 社会福祉施設等物価高騰対策一時支援金
 - 徳島県
 - 医療・社会福祉施設等電気料金等高騰対策等事業支援金
 - 阿南市_介護施設等物価高騰支援助成金
 - 鳴門市_高齢者施設等物価高騰対策支援事業
 - 山口県
 - 介護施設等物価高騰緊急対策支援事業補助金（光熱水費）
 - 介護施設等物価高騰緊急対策支援事業補助金（食材料費）
 - 岩国市
 - 岩国市社会福祉施設等物価高騰対策支援金

2. 運営状況（稼働率、利用者数）

※（ ）の数値は対前年度の増減

高齢者事業

- 特養（稼働率）

事業所名	2022年度	2023年度	2024年度 目標
ヴィラ勝占（入所） 【50名】 （ショート） 【10名】	99.4% 96.0%	99.3%（▲0.1%） 88.2%（▲7.8%）	99.2%（▲0.1%） 90.9%（+2.7%）
ヴィラ羽ノ浦（入所） 【50名】 （ショート） 【10名】	96.3% 82.1%	97.8%（+1.5%） 78.2%（▲3.9%）	98.6%（+0.8%） 93.3%（+15.1%）
ヴィラ本郷（入所） 【30名】 （ショート） 【10名】	88.6% 86.6%	89.6%（+1.0%） 85.6%（▲1.0%）	96.0%（+6.4%） 91.0%（+5.4%）
ヴィラ都筑（入所） 【110名】 （ショート） 【10名】	98.4% 73.3%	98.2%（▲0.2%） 79.3%（+6.0%）	98.6%（+0.4%） 84.5%（+5.2%）
ヴィラ町田（入所） 【200名】 （ショート） 【20名】	98.0% 90.3%	98.2%（+0.2%） 93.9%（+3.6%）	98.6%（+0.4%） 94.3%（+0.4%）
ヴィラ神奈川（入所） 【140名】 （ショート） 【20名】	95.9% 100.8%	98.1%（+2.2%） 85.1%（▲15.7%）	98.2%（+0.1%） 83.9%（▲1.2%）
ケアホーム板橋 （入所）エイト 【140名】 （入所）従来 【60名】 （ショート） 【20名】	94.1% 95.4% 77.9%	94.2%（+0.1%） 97.7%（+2.3%） 83.1%（+5.2%）	97.2%（+3.0%） 100.0%（+2.3%） 88.4%（+5.3%）
ケアホーム葛飾 （入所） 【120名】 （ショート） 【18名】	96.2% 100.9%	96.4%（+0.2%） 96.0%（▲4.9%）	96.5%（+0.1%） 96.2%（+0.2%）
ケアホーム住吉 （入所） 【100名】 （ショート） 【20名】	97.1% 65.6%	99.3%（+2.2%） 76.7%（+11.1%）	99.4%（+0.1%） 81.0%（+4.3%）

- グループホーム（稼働率）

事業所名	2022年度	2023年度	2024年度 目標
グループホーム勝占 【18名】	99.4%	98.2%（▲1.2%）	99.3%（+1.1%）
グループホーム本郷 【18名】	91.4%	95.8%（+4.4%）	97.0%（+1.2%）
グループホーム板橋 【18名】	98.4%	97.4%（▲1.0%）	100%（+2.6%）
グループホーム渭北 【18名】	95.8%	95.2%（▲0.6%）	96.7%（+1.5%）
グループホーム八万 【18名】	96.8%	93.6%（▲3.2%）	96.0%（+2.4%）
グループホーム鳴門 【18名】	99.2%	95.6%（▲3.6%）	98.0%（+2.4%）

- ケアハウス（稼働率）

事業所名	2022年度	2023年度	2024年度 目標
ケアハウスエルベ（一般） 【70名】	95.2%	96.0%（+0.8%）	96.0%（±0%）
ケアハウス淡路エルベ （一般）【40名】 （特定）【30名】	98.9% 93.8%	97.8%（▲1.1%） 90.3%（▲3.5%）	100.0%（+2.2%） 100.0%（+9.7%）
ケアハウス東浦エルベ （一般）【50名】 （特定）【30名】	99.9% 97.6%	99.5%（▲0.4%） 98.6%（+1.0%）	100%（+0.5%） 100%（+1.4%）
ケアハウス山口エルベ （一般+特定）【50名】	98.7%	97.5%（▲1.2%）	98.5%（+1.0%）
ケアハウス板橋 （一般）【20名】	97.7%	92.7%（▲5.0%）	99.6%（+6.9%）

- 訪問看護（延べ人数）

事業所名	2022年度	2023年度	2024年度 目標
訪問ステーションてとと東大阪	17,672名	16,171名 （▲1,501名）	15,785名 （▲386名）
訪問ステーションてとと徳島	18,271名	18,486名 （+215名）	19,824名 （+1,338名）

- 訪問介護（延べ人数）

事業所名	2022年度	2023年度	2024年度 目標
平成ホームヘルパーステーション 黒磯	3,780名	4,551名（+771名）	4,636名（+85名）

- 小規模・看護小規模（登録率）

事業所名	2022年度	2023年度	2024年度 目標
八万小規模多機能センター 【29名】	89.9%	93.1%（+3.2%）	99.3%（+6.2%）
鳴門小規模多機能センター 【29名】	58.9%	55.2%（▲3.7%）	63.8%（+8.6%）

- 通所介護（稼働率）

事業所名	2022年度	2023年度	2024年度 目標
平成デイサービスセンター羽ノ浦 【20名】	56.8%	68.7% (+11.9%)	78.0% (+9.3%)
平成デイサービスセンター都筑 【22名】	76.2%	78.2% (+2.0%)	79.5% (+1.3%)
平成デイサービスセンター町田 【20名】	94.6%	90.0% (▲4.6%)	95.0% (+5.0%)
平成デイサービスセンター神奈川 【20名】	80.4%	76.9% (▲3.5%)	78.7% (+1.8%)
平成デイサービスセンター渭北 【23名】	75.9%	79.4% (+3.5%)	80.5% (+1.1%)
那賀町驚敷デイサービスセンター 【35名】	62.9%	62.1% (▲0.8%)	67.3% (+5.2%)
平成デイサービスセンター平田 【50名】	90.5%	92.2% (+1.7%)	93.1% (+0.9%)
平成デイサービスセンター黒磯 【35名】	70.9%	69.4% (▲1.5%)	82.3% (+12.9%)
平成デイサービスセンター鳴門 【25名】	78.5%	81.2% (+2.7%)	86.0% (+4.8%)
平成デイサービスセンター徳島 【26名】	81.7%	85.3% (+3.6%)	91.9% (+6.6%)

- 居宅（ケアプラン数）

事業所名	2022年度	2023年度	2024年度 目標
平成在宅介護支援センター平田	1,652名	1,718名 (+66名)	1,800名 (+82名)
訪問ステーションてとと徳島	799名	777名 (▲22名)	793名 (+16名)

- 有料老人ホーム（稼働率）

事業所名	2022年度	2023年度	2024年度 目標
メディケアハウス平成【20名】	99.5%	96.9% (▲2.6%)	99.0% (+2.1%)

障がい者事業

- 就労継続支援B型（稼働率）

事業所名	2022年度	2023年度	2024年度 目標
OUCHI CAFE KITCHEN 【20名】	82.7%	76.1%（▲6.6%）	86.5%（+10.4%）

- 共同生活援助（稼働率）

事業所名	2022年度	2023年度	2024年度 目標
OUCHI HOME 【14名】	75.1%	87.8%（+12.7%）	100.0%（+12.2%）

- 医療型障害児入所施設（療養介護・短期入所）（稼働率）

事業所名	2022年度	2023年度	2024年度 目標
サポートハウスココロネ住吉 【100名】	19.5%	32.4%（+12.9%）	48.3%（+15.9%）

- 生活介護（稼働率）

事業所名	2022年度	2023年度	2024年度 目標
ココロネリビング 【20名】	12.0%	21.1%（+9.1%）	31.5%（+10.4%）

- 放課後デイサービス（稼働率）

事業所名	2022年度	2023年度	2024年度 目標
ココロネクラブ【5名】	26.7%	48.5%（+21.8%）	80.0%（+31.5%）

- 計画相談支援（支援者数/月）

事業所名	2022年度	2023年度	2024年度 目標
西新井まちの相談室	—	25名	37名（+12名）

その他事業

- 地域包括支援センター（ケアプラン数）

事業所名	2022年度	2023年度	2024年度 目標
大谷口地域包括支援センター	3,327名	3,453名（+126名）	3,660名（+207名）
岩国市岩国第三地域包括支援センター	1,890名	1,994名（+104名）	2,100名（+106名）

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

エルベ（ケアハウス）【定員：一般-70名】

高齢者事業

エルベ（ケアハウス）【定員：一般-70名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 補助金基準額の増額と、稼働率の向上により増収へとつながった。
 - 稼働率
 - 4月から7月にかけて入居者よりも退居者が多く稼働率が低迷したが、11月から1月にかけて100%に近い稼働率を維持できた。
 - 今年度は体調不良による入院が多く、そのまま退居となったケースも多かった。
 - 地域包括支援センターや居宅介護支援事業所に定期的に営業していたことで、年度末に問い合わせが急増した。
 - 収支改善
 - 消耗品や食材の在庫数と使用状況を確認し、無駄な購入を控えた。
 - 照明や空調管理を徹底した。
 - サービスの質
 - 対面での面会が再開となり、ご家族様への周知や連絡を積極的に行った。
 - 生活に不安のある入所者に対し、介護認定を提案した。
 - 体調不良者の状況報告を、ご家族様や関係者へ定期的に行った。
 - 研修の実施
 - e-ラーニングを活用し、スキル向上のための研修を実施した。
 - 未資格職員に介護基礎研修を受講させた。
 - 地域貢献活動
 - 施設内ホールを開放し、地域のクラブの方に利用していただいた。
 - 地域の民生委員の方に見学していただき、意見交換を行った。
 - 地域の消防団員参加の防災訓練を計画したが、日程が合わず実施できなかった。
 - 改修工事
 - 食洗機の導入
 - 1階エレベーターホール蛍光灯 LED変更
 - ゲストルーム蛍光灯 LED変更
 - 1階女子トイレ本体 入替
 - コイン式自動洗濯機2台 入替

- 主な指標

※ () の数値は対前年度の増減

- 一般

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	95.2%	96.0% (+0.8%)	96.0 (±0%)
単価 (人・日)	4,042円	4,093円 (+51円)	4,103円 (+10円)

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

淡路エルベ（ケアハウス）【定員：一般-40名 特定施設-30名】

高齢者事業

淡路エルベ（ケアハウス）【定員：一般-40名 特定施設-30名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 介護度が重い方の受け入れや状態変化があった場合に適切な介護度でサービスを提供ができるように区分変更を提案し実施。それにより平均要介護度を上げることができた。
 - 病院や居宅支援事業所等に電話やケアマネが施設来所時での施設の案内を実施し、待機者の確保に努めた。
 - 待機者への意志確認、すぐ入居して頂けるよう定期的に連絡を行い空床の期間を短縮に努めた。
 - 稼働率
 - 施設内で感染症発生や急な退居で入退居がスムーズに出来なかったことが稼働率が低下する原因となった。
 - 収支改善
 - 物品発注や新規購入において在庫管理徹底や必要性の再検討を行って管理した。
 - 施設内外照明や空調の温度管理を積極的に行った。
 - 介護度の重い方の受け入れや利用者様の状態を適時、家族様へ報告状態変化のあった方には区分変更申請の検討を依頼。実際に区分変更をしたことにより平均要介護度が上がり介護報酬増収につなげることができた。
 - サービスの質
 - 接遇面の向上を継続して目指し、ミーティングで接遇面の申し送りを行ったり定期的に勉強会を実施した。
 - オンライン面会を案内し定期的に実施した。詳しく説明することで多くの方に利用頂く事ができ、入居者様にも喜んで頂いた。
 - 生活機能向上連携加算の算定により、併設医療機関所属の理学療法士と連携し、特定施設利用者個人個人に対して効果的な機能訓練を実施できた。
 - eラーニング受講支援、認知症介護基礎研修を無資格者全員が受講済み。
 - 買い物ツアーを再開し、外出の機会確保、社会性の維持に努めた
 - 地域貢献活動
 - 南あわじ市の社会福祉法人11法人が協働して地域を支える南あわじ市社会

福祉法人連絡協議会へ参加し、災害時の地域への貢献活動の準備に取り組み、防災訓練に参加、災害ボランティアセンター設営訓練に参加した。

- 月2回南あわじ市地域ケア会議へ参加し、民生委員の方に対し入居に関する相談や居宅ケアマネージャーへの営業を実施した。

○ 改修工事

- 上水給水ポンプ修理（2023年5月）
- 非常階段修理（2023年5月）
- 1階トイレ排管修理（2023年6月）
- エアコン・給湯器設置（2023年10月）
- ナースコール設備入れ替え（2023年12月）

○ 新型コロナウイルスへの対応

- 感染対策委員会を定期的を実施し、毎朝のミーティングなどで情報共有や感染対策の徹底について注意喚起した。
- 環境衛生や換気の時間を設定し、職員全員で取り組んだ。
- 移動販売や近くのコンビニ、ドラッグストア等と連携し買い物支援を行った。
- 協力医療機関との連携を密に行い、入居者が発熱等で体調を崩した場合の連絡体制を整えたことで、早急に検査や対応をしていただけた。

● 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

○ 一般

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	98.9%	97.8% (▲1.1%)	100% (+2.2%)
単価 (人・日)	3,805円	3,778円 (▲27円)	3,811円 (+33円)

○ 特定施設

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	93.8%	90.3% (▲3.5%)	100.0% (+9.7%)
平均要介護度	1.1	1.3 (+0.2)	1.5 (+0.2)
単価 (人・日)	5,928円	6,116円 (+188円)	6,717円 (+601円)

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

東浦エルベ（ケアハウス）【定員：一般-50名 特定施設-30名】

高齢者事業

東浦エルベ（ケアハウス）【定員：一般-50名 特定施設-30名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 補助金
 - 高齢者施設原油価格・物価高騰対策一時支援金
 - 4,250,000円
 - 介護事業者等サービス継続支援事業補助金
 - 3,230,000円
 - 稼働率
 - 入退居時ご家族との連携を密にし、ケアハウス月平均99.6%を維持
 - 特定施設入居者生活介護利用者の入院数減少により月平均98.6%を維持
 - サービスの質
 - 久留麻老人福祉センター体操教室への参加
 - 淡路島以外から来られた自立の入居者へ余暇活動提供
 - サンシャインホールでの発表会開催
 - 口腔機能測定会
 - 言語聴覚士による嚥下機能評価
 - 14名参加
 - 淡路体力測定会への参加
 - 理学療法士による筋力評価と相談や体操の指導
 - 9名参加
 - 人材の確保、育成
 - 無資格者へ認知症介護基礎研修受講
 - eラーニング受講のための支援
 - 無資格者全員が受講済み
 - 地域貢献活動
 - くつの受注販売会
 - 徳武産業さんによる足のサイズ測定会
 - 介護用シューズの展示や杖や靴下の販売
 - ご家族も参加し、個別相談対応
 - 新規事業・改修工事
 - エアコン設置工事（2023年8月）

- 機械室昇温循環ポンプ取替工事（2023年9月）
- 機械室厨房用給湯循環ポンプ取替工事（2023年12月）
- 機械室ろ過器電動弁取替工事（2024年3月）

主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

○ 一般

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	99.9%	99.5% (▲0.4)	100.0% (+0.5%)
単価 (人・日)	3,470円	3,484円 (+14円)	3,550円 (+66円)

○ 特定施設

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	97.6%	98.6% (+1.0%)	100.0% (+1.4%)
平均要介護度	1.7	1.7 (±0)	1.7 (±0)
単価 (人・日)	6,461円	6,119円 (▲342円)	6,500円 (+381円)

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

山口エルベ（ケアハウス）【定員：特定施設-50名】

高齢者事業

山口エルベ（ケアハウス）【定員：特定施設-50名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 2024年1月より個別機能訓練加算I及びIIの算定を再開。
 - 補助金
 - 介護サービス事業所等に対するサービス継続支援事業費補助金
 - 介護施設等・障害者施設等物価高騰緊急対策支援事業補助金
 - 稼働率
 - 医療機関や近隣施設との連携を密に行い稼働率アップに努めたが、近隣施設の閉鎖等に伴う入退居調整があったため低下した。
 - 収支改善
 - 個別機能訓練加算I及びIIの算定を再開した。
 - 既存の加算については取りこぼしなく算定できた。
 - サービスの質
 - 月2回、訪問販売を実施し、お菓子や日用品を自身で選択・購入する機会の提供ができた。
 - 月2回以上のイベントを開催し、充実した余暇活動を提供できた。
 - 業務改善委員会を中心とした業務内容の見直し及び改善を行い、業務の効率化を図った。
 - 人材の確保、育成
 - 研修の実施
 - 毎月施設内勉強会を実施し、様々なテーマについて学んだ。
 - 毎月Eラーニングを活用した研修を実施し、職員個々の知識を深めることができた。
 - キャリアパス制度の整備など人事管理、制度の適正化
 - 働きやすい労働環境を目指し、定時退社の徹底、有給休暇の取得促進や各種制度の積極的な活用を行った。
 - 法人、グループ内の連携
 - 相互に連携・協力体制を持ち、山口エリアの入退院・入退所状況の情報を共有して、切れ目のない医療・福祉サービスを提供できた。

- 地域貢献活動
 - 慰問ボランティアの招致を再開した。
 - 地域の消防組合協力による救急救命講習を実施し、救急救命時の対応手順等を学んだ。

- 改修工事
 - ナースコール設備更新（2023年5月）
 - 貯水槽配管修理工事（2023年6月）
 - 駐車場補修工事（2023年8月）
 - 食堂床張替工事（2023年12月）

- 新型コロナウイルス感染症への対応
 - 感染対策委員会を中心とした施設内研修会の開催や、PPE着脱手順等の実技訓練の実施により、感染対策の徹底ができた。

- 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

- 一般

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	0%	0% (±0%)	0% (±0%)
単価 (人・日)	0円	0円 (±0円)	0円 (±0円)

- 特定施設

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	98.7%	97.5% (▲1.2%)	98.5% (+1.0%)
平均要介護度	1.6	1.6 (±0)	1.7 (+0.1)
単価 (人・日)	9,718円	9,670円 (▲48円)	9,887円 (+217円)

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ勝占（特養）【定員：入所-50名 ショート-10名】

グループホーム勝占【定員：18名】

高齢者事業

ヴィラ勝占（特養）【定員：入所-50名 ショート-10名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 2023年11月～12月新型コロナウイルス感染症によるクラスターが発生したことにより、全体で223万の減収となった。
 - お元気な方のショート利用が増加した事により、平均介護度の低下や単価の減収が見られたが、外部との連携により新規入所に繋げることができた。
 - 看護師の退職により、ショートの機能訓練体制加算算定が出来なかった。
 - 稼働率
 - 2023年11月～12月新型コロナウイルス感染症によるクラスターが発生し、医療機関への入院及びその期間の受け入れが入所、ショートとも止まったことにより、稼働率を下げってしまう結果となった。
 - 病院からの緊急入所を受け入れたことによりショート枠が入所に変更しショートの稼働率が低下したものの、入所は100%を超える稼働率を5ヶ月維持することができた。
 - 収支改善
 - 介護職員等ベースアップ等支援加算を入所、ショートともに1年間算定をすることができた。
 - 昨年度から光熱費の高騰が継続しているが、施設全体で不必要な電気は消し節約に繋げることができた。
 - サービスの質
 - 感染対策を継続して行い、サークル活動及び四季折々の行事、又ドライブや遠足を実施し充実した施設生活を送っていただけるよう努めた。
 - ボランティアさんの受け入れを再開し、全体でのサークル活動や季節の行事等を積極的に開催し、余暇活動の充実を図った。
 - 人材の確保、育成
 - 職員紹介制度やハローワーク、人材派遣を利用することにより職員を確保することができた。
 - 施設内研修においてはe-ラーニングを活用し、知識の習得に努めた。又外部研修ではzoomを活用し、コロナ禍においても積極的に意見交換や学習の場を獲得することができた

- 資格取得
 - 認知症介護基礎研修に、3名受講することができた。
 - 認知症介護実践者研修に、1名受講することができた。
- 地域貢献活動
 - 今年度は、避難訓練に地域の方をお招きし、水消火器による消火訓練や実際に防災テントを立てての福祉避難所作りを行った。
- 改修工事
 - 厨房エアコン（2台）
 - ガス給湯器（4機）取り換え。
- 新型コロナウイルスへの対応
 - 利用者様の面会を感染対策をしていただいたうえで制限等を無くし、ゆっくりと面会をしていただくことができた。
 - 職員14名、家庭内感染にて新型コロナに罹患したが、職員同士による感染拡大は見られなかった。
 - 感染委員会を中心に、感染症予防の勉強会、シュミレーション、PPE実技訓練を実施し、急な感染に対応できるよう備えた。
- 主な指標

○ 入所

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	99.4%	99.3%(▲0.1%)	99.2%(▲0.1%)
平均要介護度	4.1	4.1 (±0)	4.1 (±0)
単価 (人・日)	14,798円	14,874円 (+76円)	15,425円 (+551円)

○ ショート

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	96.0%	88.2% (▲7.8%)	90.9% (+2.7%)
平均要介護度	4.0	3.8(▲0.2)	3.9(+0.1)
単価 (人・日)	13,698円	13,617円 (▲81円)	13,835円 (+218円)

グループホーム勝占【定員：18名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 前年度と比較して稼働率、平均要介護度共に低下したが、取りこぼしなく加算を算定したことで、僅かではあるが増収に繋がった。
 - 稼働率
 - 98.2%（前年度比▲1.2%）
10月に入居者様2名がコロナ陽性となり入院となった為、稼働率が91.9%と著しく低下した。年間を通して稼働率100%を目標としていたが100%を達成したのは4ヶ月のみで、前年度の稼働率99.4%をも下回る結果となった。
 - 収支改善
 - 管理栄養士協力の下、栄養管理体制加算の算定を継続し、入居者様の栄養状態の改善に努めた。
 - 入居者様が入院した際には協力医療機関と情報を共有し連携を図ることで早期の退院へと繋げ、入院時費用を算定することができた。
 - 物品の在庫管理を行い、過剰発注やストックを控えた。
 - サービスの質
 - アンケートの実施
 - 入居者様及び家族様へ生活環境や接遇に関するアンケートを実施した。ホールの整理整頓の不備や不快な臭いがあるとのこと意見をいただいた為、環境を整備し改善に努めた。
 - 職員満足の追及
 - 職員間のコミュニケーションを大切にし、意見を言いやすい関係、働きやすい環境作りに努めた。
 - 余暇活動の充実
 - 毎日レクリエーションを実施することができた。戸外にも目を向け、ドライブに出かけたり、気候の良い日には積極的に散歩に出かけたりした。毎月の行事についても、新たな取組で入居者様に楽しんでもらいたいという職員のアイデアを形にし、実施することができた。
 - 家族交流
 - 面会が増え、自宅に一時帰宅したり、ご家族様のお見舞いに出かけたりと外出の機会も増えた。ご家族様と過ごす時間が増えたことで、入居者様の笑顔も増えたように感じる。

- 感染対策
 - 家庭内で新型コロナウイルスに罹患した職員からの持ち込みにより、グループホーム内で感染が広がった。実際の感染現場を経験したことで、職員の感染症予防に対する意識は高まったが、時間経過と共に忘れていることも多く、手指洗浄やPPEの着脱の仕方について実技を交えながら勉強会を行った。

- 人材の確保、育成
 - 研修や勉強会への参加の機会の確保
 - Web研修を活用して法人内外の研修に参加することができた。また、参加する職員が偏らないよう配慮し、職員が満遍なく学ぶ機会を持てるよう努めた。また、グループホーム内での勉強会においてはe-ラーニングを積極的に活用した。
 - 資格取得
 - 介護福祉士国家試験に1名合格した。
 - 認知症介護基礎研修を1名受講した。
 - 人材の確保
 - 職員からの紹介やハローワークからの紹介により、人材を確保することができた。

- 地域貢献活動
 - 地域交流
 - 2023年8月より対面での運営推進会議が再開となり、会議に地域の民生委員が出席してくれるようになった。会議を通してグループホームにおいて地域の方と入居者様の作品展示会の開催を提案していただいたり、防災避難訓練に参加していただいたりと地域の方と関わる機会が増えた。

- 主な指標 ※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	99.4%	98.2% (▲1.2)	99.3% (+1.1%)
平均要介護度	3.0	2.5 (▲0.5)	2.8 (+0.3)
単価 (人・日)	12,420円	12,484円 (+64円)	12,674円 (+190円)

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ羽ノ浦（特養）【定員：入所-50名 ショート-10名】

平成デイサービスセンター羽ノ浦（通所介護）【定員：20名】

高齢者事業

ヴィラ羽ノ浦（特養）【定員：入所-50名 ショート-10名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 入所では、前年度比約518万円の増収となった。
 - ショートでは、稼働率は下げたものの約12万円の増収となり、前年度の両サービス共に減収の状況から転じることができた。
 - 稼働率
 - 入所では、前年度（96.3%）から1.5%上回り、年間を通しての稼働率は97.8%となった。2022年度程のコロナ感染症クラスターに見舞われることはなかったものの、体調不良等で入院された方の空床調整に困難（状態によっては空床のまま残しておかなければならない状況ができた）を要したこともあり、大幅な上昇とならなかった。
 - ショートは前年度（82.1%）を3.9%下回り78.2%となった。主に4～6月の稼働が低調であった。ロングショート利用者の入院や死亡、2～3泊の短期間利用者の合間の空床調整が上手くできなかったことが要員と考えている。
 - 収支改善
 - 入所では、経験のある介護福祉士が中途採用で入職したことや、資格持ちの退職者が出なかったこともあり日常生活継続支援加算（I）の算定を維持できた。
 - ショートステイでも人員に変化なく、サービス提供体制強化加算IIを維持することができた。
 - サービスの質
 - 2025年度には認知症高齢者が700万人に達するとされる将来推計や、阿南市の高齢化率がすでに30%を超えている現状から見ても、入所・利用者の状態や抱えている疾病が開設当初とは大きく様変わりしている。認知症対応力の向上も不可欠となり、今年度より義務化された無資格の介護職員等による認知症介護基礎研修を全員が修了している。当施設には認知症介護実践者研修修了者も3名いるが、更なる修了者及び上位（リーダー）研修受講者増、昨年度1名増え11名となった認定特定行為業務従事者の研修受講・登録者を増やすことで医療面の充実を図っていくことも課題となる。

- 人材の確保、育成
 - グループで進める「介護プロフェッショナルキャリア段位制度」におけるアセッサー資格保有者2名の内1名が2022年度に介護マネージャーとなり、今年度新たにもう1名を介護チーフに、更に介護リーダー1名を介護主任（及び介護トレーナー）に昇格させ、介護課全体の業務が円滑に行われるようサービスの質の向上・改善に努めた。
 - 外国人（バングラデシュ）技能実習生2名の内1名が技能実習3号へ、もう1名が特定技能1号へ移行した。今後介護福祉士資格取得を目指し日本語能力の向上に努めている。

 - 地域貢献活動
 - 地域の公園で開催されたさくら祭りにおいて職員がボランティアスタッフとして「こどものASOBIBA」ブースを担当した。
 - コロナ禍で受入れが出来なかった地域ボランティアの受入れを再開し、入所者に楽しい一時を過ごしていただいた。

 - 改修工事・備品修理及び購入
 - エレベータードア基盤 交換
 - 1階天井給湯配管漏水 修繕
 - 排水槽放流ポンプ配管 修繕

 - 新型コロナウイルスへの対応
 - 2022年度は施設がコロナ感染のクラスターに見舞われるようなことなく、入所者も職員も一昨年度に比べ穏やかに過ごすことができた。第5類へ移行し、面会も居室で出来るようにして時間や人数制限も大きく緩和することができた。年明けに通所部門の利用者やその家族の感染したケースもあったが、適切な対応により施設への影響はなかった。
- 主な指標

○ 入所

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	96.3%	97.8% (+1.5%)	98.6% (+0.8%)
平均要介護度	4.2	4.1 (▲0.1)	4.1 (±0)
単価 (人・日)	12,488円	12,590円 (+102円)	13,160円 (+570円)

○ ショート

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	82.1%	78.2% (▲3.9%)	93.3% (+15.1%)
平均要介護度	3.1	3.2 (+0.1)	3.2 (±0)
単価 (人・日)	10,139円	10,408円 (+269円)	11,250円 (+842円)

平成デイサービスセンター羽ノ浦（通所介護）【定員：20名】

● 事業報告の概要

○ 業績等

■ 収益

- 年明けに利用者とその家族がコロナ感染したケースがあり、事業所全体への感染拡大はなかったものの、感染者の療養や自主的な利用控えにより他の月に比べ1～2月は収益を下げることとなり、3月も完全に回復することが出来なかった。

■ 稼働率

- 2023年6月以降70%以上を保ち12月には75%に迫っていた稼働率を、コロナ感染に絡む利用減で1月以降は下げてしまった。それでも年平均稼働率は前年を11.9%上回る結果を残せた。

■ 収支改善

- 2022年から協力病院からリハビリテーションスタッフが派遣され、2022年7月より個別機能訓練加算の算定を開始、2023年度は営業やHPでの広報等により訓練実施施設としての周知が進み、算定額も前年度比2.5倍となった。
- 仮に1～3月のコロナの影響が無かったとしても2023年度目標平均稼働率75%の達成には到らなかったと推測している。ただ、2022年度に比べて上昇傾向にあり、スタッフ控室に週間稼働率を掲示して役職者のみならず現場職員一人一人が稼働率を認識するための意識付けを図れた。

○ サービスの質

- 入所サービスと同様、認知症高齢者の日常生活自立度の低い方や医療必要度の高い利用者が増えており、これに対応するためミーティングや実践法の勉強会、認知症介護基礎研修の受講を通して基礎知識及び個別対応法について学ぶ機会を増やした。

- 人材の確保、育成
 - 介護福祉士資格をもった中途採用者の入職があった一方で、ベテランのパート介護福祉士の退職があり、充実した職場環境の整備と個を尊重し合える関係性の構築が今度の課題となる。
 - 今年度より義務化された無資格の介護職員等による認知症介護基礎研修を全員が修了した。
 - 1月に送迎車両が車両同士の事故に遭い廃車となった。幸い利用者は同乗しておらず、職員にも大きな怪我はなかった。事故原因も相手側の過失割合が大きかったものの、動いている以上事故はお互い様であることを認識し、今一度安全運転の意識を高めるよう全職員に指導を行った。

- 地域貢献活動
 - コロナ禍で中止となっていた介護予防・健康教室「ヴィラ羽ノ浦健康クラブ」を昨年7月より再開した。以降も月1回、施設近隣に住む要介護・要支援とならない方を対象に開催を継続している。健康運動指導士資格を持つ講師を招き、主にフレイル予防運動を指導してもらっている。

- 改修工事・備品修理及び購入
 - 送迎車両 修繕・廃車

- 新型コロナウイルスへの対応
 - 利用者さんやその家族が個々に感染した事例があり、送迎車両に乗り合わせていた等により局所的な感染が認められたが、適切な対応によって事業所全体への感染拡大は逃れた。

● 主な指標

※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	56.8%	68.7% (+11.9%)	78.0% (+9.3%)
平均要介護度	2.2	2.1 (▲0.1)	2.1 (±0)
単価 (人・日)	8,737円	8,887円 (+150円)	9,991円 (+1,104円)

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ本郷（特養）【定員：入所-30名 ショート-10名】

グループホーム本郷【定員：18名】

高齢者事業

ヴィラ本郷（特養）【定員：入所-30名 ショート-10名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 入所、ショートともに大きな改善はできず、前年度の収益と比較して横並びの実績となった。年間を通して感染症蔓延等の影響が大きく、稼働率が伸び悩んだ。
 - 要介護度の低下があり、個人単価が若干低下している。
 - 稼働率
 - 年度初め、インフルエンザ蔓延による影響により入院者7名うち4名が退所となり、稼働を大きく落とした。
 - 8月中旬、原因不明の風邪が地域的に蔓延し、当施設においても入所者の多くが感染、5名の入院者を出すこととなった。うち4名は退所となっている。同じく年度末3月にも風邪の蔓延があり、入院者4名うち4名の退所となっている。
 - 入所申込者・待機者の確保にも努めたが、退所者の人数に追いつかない状況が続いた。
 - いずれも感染発生期間ではショートは受け入れ中止としていたため、大きな稼働率の低下があった。
 - 収支改善
 - 年内では常勤看護師の確保ができず各種加算算定再開はできていないが、次年度より算定できる状況となった。
 - サービスの質
 - 施設内でも季節を感じられるような定期イベントの開催、飾りや掲示物などの工夫を行った。少しずつではあるが、外出の機会も設けている。
 - 家族等にもご利用者の状況把握ができるように、定期報告や広報活動に力を入れた。大きなトラブルなどもみられなかった。
 - 人材の確保、育成
 - ラダーにおけるトレーナー候補の選定ができ、その育成についても少しずつ進捗している。施設内においても役割を担えるように進めていきたい。
 - オンライン研修による職員の知識・技能向上を推進した。
 - 常勤調理師2名の突然の退職があり、厨房業務の継続が困難な状況に陥ったが、協力病院からの出向、メディス岩国への給食委託等によって乗り切ることができた。

- 職員募集活動が実を結び、2月には調理員1名を確保することができたため、自施設での厨房業務が安定した。
 - 管理栄養士、介護職員それぞれ1名、新卒の人材を確保することができた。
 - 地域貢献活動
 - 岩国市公益活動の法人・施設間の連携により、フードバンクの立ち上げを実現した。当施設においても定期的な支援や話し合いへの参加を行い、運営に協力できている。
 - 本郷地域の問題解消にかかわる会議へ定期参加している。また草刈りボランティア等への定期参加も実施している。
 - 本郷中学の学生を対象として、介護福祉についての講義を施設職員により行っている。今後も実施していきたい。
 - 改修工事
 - 非常誘導灯数か所の消防設備の改修を行った。
 - その他
 - 職員やその家族等に新型コロナウイルス、インフルエンザ、ノロウイルス感染者等の発生があり、業務への影響が大きかった。
- 主な指標

○ 入所

※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	88.6%	89.6% (+1.0%)	96.0% (+6.4%)
平均要介護度	4.1	4.0 (▲0.1)	4.1 (+0.1)
単価 (人・日)	13,034円	12,700円 (▲334円)	13,320円 (+620円)

○ ショート

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	86.6%	85.6% (▲1.0%)	91.0% (+5.4%)
平均要介護度	3.0	2.7 (▲0.3)	2.7 (±0)
単価 (人・日)	11,257円	11,000円 (▲257円)	11,280円 (+280円)

グループホーム本郷【定員：18名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 前年度に比べ改善しているが、要因は前年度の稼働率が悪かったためである。
 - 稼働率
 - 本年度はコロナが稼働率にあまり影響しなかったため、稼働率が平年並みに回復した。
 - 待機者に不足はないが、骨折等による一時的な入院が稼働率を押し下げた。
 - 収支改善
 - MEDICにより月々の収支が見える化されたため、当施設の状況を把握できるようになった。それにより人件費を含め、より適正な運営ができるよう役立っている。
 - サービスの質
 - 限られた人員で効率よく満足度の高いサービスを提供するよう心掛けた。特に近年控えていた外出を積極的に実施した。
 - 人材の確保、育成
 - 人員不足のグループ関連施設に職員を異動するなど、他施設との協力による人員確保を行った。
 - 若い職員が公務員試験合格により退職したという事があり、職員の高齢化に拍車がかかり人材確保には苦慮している。
 - 地域貢献活動
 - 地域の各種会議に参加
 - 地域の清掃活動に参加
 - 地域の中学校への出前授業実施（ヴィラ本郷と合同）
 - 改修工事
 - 改修無し。
 - その他
 - 職員本人や家族のコロナ感染による長期出勤停止が年間を通じて多数あり勤務状況は不安定であったが、施設内に病気が蔓延するといった事はなく運営を行えた。

- 主な指標

※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	91.4%	95.8% (+4.4%)	97.0% (+1.2%)
平均要介護度	2.2	2.6 (+0.4)	2.6 (±0)
単価 (人・日)	11,751円	11,969円 (+218円)	12,192円 (+223円)

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ都筑（特養）【定員：入所-110名 ショート-10名】

平成デイサービスセンター都筑（通所介護）【定員：22名】

高齢者事業

ヴィラ都筑（特養）【定員：入所-110名 ショート-10名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 本入所
 - 平均稼働率は下がったが、人件費・残業代の減少と加算算定により介護収益が増加することで収益があがった。単価は+40円あがった。
 - ショート
 - 平均介護度が+0.1増と療養食加算の算定と介護職員等ベースアップ等支援加算の算定により収益を増加することができた。
 - 稼働率
 - 今年度はクラスター・感染症の影響は少なかったが、体調不良者と入院者が多く前年度に比べ0.2%低い98.2%だった
 - ショートの稼働は病院・事業所に積極的に声をかけ前年度比+6%増となった。
 - 収支改善
 - 本入所の待機者獲得を最優先とし、ショートステイでの受入れを実施すると共に、病院との連携調整を強化した。
 - 医療対応の必要な利用者の受け入れ維持により医療対応促進助成金の申請を継続した。
 - 物価高騰とエネルギー費高騰により支出が増えたが、節電と節約を行うことで補填に努めた。
 - サービスの質
 - 介護サービスの質の評価とLIFEのフィードバックを活用し施設利用者の傾向を認知し多職種連携の強化と協働した。
 - クラスター発生を経験し、職員の再教育と感染予防策の徹底実施を行い、安心・安全の生活環境のサービス提供を実践した。
 - 委員会活動の見直しを行い、入浴・排泄介助の勉強会を開始しスタッフの知識・技術の向上に努めた。
 - 生き物と共に生活する環境の提供を目的とし、施設ドッグとのふれあい、メダカの育成 ビオトープの導入、園芸活動の提供にてレクリエーション

の強化を実践した。

○ 人材の確保、育成

- 新卒介護士の育成、卒後3年クリニカルリーダーを修了しキャリアアップの為に退職。新たに介護士学校より新卒介護士の受け入れが出来た。
- 技能実習生2名の内、1名が介護福祉士の試験を合格、来年度より介護福祉士として現場で業務を行う。もう1名は来年度試験に合格できるよう現場スタッフ共に語学力のフォローに努める。
- 介護認知症研修、ユニットリーダー研修を修了し職員教育の強化が出来た。
- 看護師夜間代理オンコールを導入し、介護職が夜間安心して勤務できる環境を整えた。
- 介護係長・主任と学校営業にいったことで介護福祉士の新卒者3名を獲得することができた。

○ 地域貢献活動

- 市営勝田団地自治会の定例会に参加し、介護サービスの案内、住民情報共有を実施した。
- 施設にて近隣の施設長・役職者を呼び消防訓練を実施し協力連携を強化に努めた。

○ 改修工事

- ダイキン 室外機
- 非常照明器具交換

● 主な指標

○ 入所

※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	98.4%	98.2% (▲0.2%)	98.6% (+0.4%)
平均要介護度	3.9	3.8 (▲0.1)	4.0 (+0.2)
単価 (人・日)	15,164円	15,207円(+43円)	15,942円(+735円)

○ ショート

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	73.3%	79.3% (+6.0)	84.5% (+5.2%)
平均要介護度	3.1	3.2 (+0.1)	3.3 (+0.1)
単価 (人・日)	15,165円	15,312円 (+147円)	15,407円 (+95円)

平成デイサービスセンター都筑（通所介護）【定員：22名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 介護職員等ベースアップ等支援加算を算定したことにより介護収益が+1,768,241円増となった。
 - コロナ感染管理を事業所へ十分説明することで前年度のコロナ利用控えの影響を最小限にすることが出来、収益を維持した。
 - 稼働率
 - デイサービス質の改善と営業活動強化により前年度比+1.9%の稼働率となった。
 - 食事とデザートのおもてなしの他事業所との差別化をはかり、職員には入浴介助の質とサービスの向上を意識させたうえで、営業資料に反映させ、問い合わせ件数を増加することが出来た。
 - 新規事業所への営業を実施し、新規利用者の獲得を強化した。
 - 収支改善
 - 物価高騰、エネルギー費高騰の影響による支出・修繕費の支出が増えた。
 - 節電プログラムを実施しエネルギー使用量の無駄を削減した。
 - サービスの質
 - 園芸・ガーデニングを取り入れレクリエーションの強化
 - 食事・デザートのおもてなし強化
 - プライベート空間を保ち、人目を気にせず個室静養できる環境の整備
 - 感染対策実施の徹底
 - 竹藪の整備 竹資材の活用
 - 入浴介助のレクチャー・シャンプーボディソープの選択制
 - 人材の確保、育成
 - 介護サービス企画部の指導を受け、デイ職員の職場環境整理とレクリエーション企画の実現によりやりがいのある職場を作ることが出来た。
 - 過去に離職した職員から職場環境改善を評価してもらい、再就職につながった。
 - 無資格職員が介護認知症研修を受講し教育の強化が図れた。

○ 地域貢献活動

- 勝田団地自治体への介護サービス相談会を実施し月1回の訪問を実施
- 幼稚園からの園児活動はコロナ対策中にて延期、情報共有は継続

● 主な指標

※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	76.2%	78.2% (+2.0%)	79.5% (+1.3)
平均要介護度	1.9	1.9 (±0)	2.1 (+0.2)
単価 (人・日)	9,675円	9,565円 (▲110円)	9,958円 (+393円)

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ町田（特養）【定員：入所-200名 ショート-20名】

平成デイサービスセンター町田（通所介護）【定員：20名】

高齢者事業

ヴィラ町田（特養）【定員：入所-200名 ショート-20名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 本入所
 - 前年度より0.2%増加した。
 - ショートステイ
 - 前年度より3.6%増加した。
 - 稼働率
 - 本入所
 - 入所申込者は病院からの新規も多かったため、入所してから間もなくまた再入院するケースが多かった。
 - ショートステイ
 - 空床状況を居宅、病院、老健などに月2回のFAXを継続し定着してきたため緊急の利用やロングの獲得に繋がった。また特養の空床を利用し、ショートの稼働率を上げることができた。
 - 収支改善
 - 入所の空床利用で緊急ショート受け入れや利用日数の延長も対応可能であるなど声掛けを行った。
 - 特養647万円、ショート500万円ほどの収入増となった。
 - 光熱水費の高騰の影響があったが東京都と町田市の支援事業として介護サービス物価高騰緊急対策支援金を活用することができた。
 - サービスの質
 - 外出行事、ボランティアの受け入れを開始し、4年ぶりに秋祭りのイベントも再開しご利用者様、ご家族様にも喜んで頂けた。
 - 誕生会を再開し、月の初めに実施し誕生月の利用者様の笑顔を広報誌に掲載。ご家族様にも喜んで頂けた。
 - 年度前半は利用者様の写真をご家族様にお送りしていたが、面会を再開し自由に面会が出来るようになったことがご家族様の安心に繋がった。
 - 人材の確保、育成
 - マネジメント研修等オンライン研修の参加。
 - 技能実習生2名が介護福祉士国家試験に合格。

- 介護課の組織体制トレーナー、マネージャーが介護技術研修など人材育成に取り組み介護職員全員が心肺蘇生、介護技術の評価を行った。
- 地域貢献活動
 - 月1回第一火曜日（武蔵丘団地）、3週間に一度金曜日（丸山団地）地域支え合い活動として近隣の団地の高齢者の買い物ツアーの送迎を実施。
 - 地域交流事業である毎月第一日曜日に実施している相原駅前朝一マーケットに参加。
- 改修工事及び備品購入
 - エコキュート5号機故障修理
 - 2階機械浴槽PAO購入
 - マルチエアコン室外機修理
 - 厨房の床の張替工事
 - 消防設備是正工事
 - 非常用照明取替工事
- 主な指標

- 入所

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	98.0%	98.2% (0.2%)	98.6% (+0.4%)
平均要介護度	3.6	3.5 (▲0.1)	3.6 (+0.1)
単価 (人・日)	14,615円	14,634円 (+19円)	15,186円 (+552円)

- ショート

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	90.3%	93.9% (+3.6%)	94.3% (+0.4%)
平均要介護度	3.1	3.0 (▲0.1)	3.8 (+0.8)
単価 (人・日)	14,556円	14,501円 (▲55円)	15,045円 (+544円)

平成デイサービスセンター町田（通所介護）【定員：20名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 2023年6月より個別機能訓練加算（I）イ、（II）が算定可能となった。利用者の定着により安定した収益が得られた。
 - 昨年より189万円程の収入増となった。
 - 稼働率
 - 利用回数の多かった利用者様の入院や特養入所などがあったが居宅支援事業所への年間の新規利用者は27名程度であったが、利用日数増や利用者の急な休みも少なかった。
 - 収支改善
 - 年間平均90%の稼働率であったが個別機能訓練加算の算定が安定してきた。
 - サービスの質
 - 利用者様に好評な食事レクリエーションを実施。また管理栄養士による炊飯器で簡単に出来る料理を利用者様と実践し、大変好評だった。
 - 利用者様と近隣のコンビニに買い物に出かけ、普段なかなか自由に外出できない方と一緒に買い物を楽しむ企画を実施した。
 - 人材の確保、育成
 - 介護常勤1名、非常勤1名が入職
 - 入職者は介護技術研修に参加
 - Webでの研修の参加
 - 地域貢献活動
 - 近隣の商店からの出前レクや、近隣のふれあい水族館や牧場などで動物とのふれあい行事を実施。
 - ショッピングモールへ行き買い物をしたり、自分の好きなメニューを選び食事を楽しむレクを行った。
- 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	94.6%	90.0% (▲4.6%)	95.0% (+5.0%)
平均要介護度	2.0	2.2 (+0.2)	2.0 (▲0.2)
単価（人・日）	9,467円	9,559円 (+92円)	10,065円 (+506円)

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ神奈川（特養）【定員：入所-140名 ショート-20名】

平成デイサービスセンター神奈川（通所介護）【定員：20名】

高齢者事業

ヴィラ神奈川（特養）【定員：入所-140名 ショート-20名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 特養は日常生活継続支援加算IIからサービス提供体制加算Iに変更となり、平均利用単価が下がった。
 - ショートステイは介護職員等ベースアップ等支援加算を継続算定となり、平均利用単価が増えた。
 - 稼働率
 - 特養は、ご入居者様の体調不良に伴う入院やご逝去等の退所件数が減り、稼働率が向上した。
 - ショートステイは感染症等による利用キャンセルが増え、昨年より稼働率を低下した。
 - 収支改善
 - 稼働率の維持・向上に重点を置いた。
 - 物価高騰・水道光熱費の高騰に対し、横浜市の物価高騰対策支援を受け、施設内においても節電・節水の啓発を行った。
 - サービスの質
 - 新型コロナウイルスの5類変更に伴い、通常面会を再開。
 - 感染対策を考慮したイベント・レクリエーション、クラブ活動の実施。
 - 屋外への外出イベントの実施。
 - 人材の確保、育成
 - オンライン研修を中心として、各種研修に参加した。
 - スポーツ・レジャー等を通して、職員交流を図った。
 - 地域貢献活動
 - 地域の社会福祉施設幹事会に出席し、社会福祉協議会主導の近隣団地内の高齢者送迎サービスの計画と運用、実施範囲の追加を検討した。
 - 調理師専門学校の実習受け入れを行った。
 - 改修工事
 - 消防点検時の不備箇所（非常用照明・消火器の交換）
 - 空調・洗面台修理等

- 主な指標

- 入所

※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	95.9%	98.1% (+2.2%)	98.2% (+0.1%)
平均要介護度	4.0	4.0 (±0)	4.0 (±0)
単価 (人・日)	15,090円	14,913円 (▲177円)	15,574円 (+661円)

- ショート

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	100.8%	85.1% (▲15.7%)	83.9% (▲1.2%)
平均要介護度	2.8	2.7 (▲0.1)	2.8 (+0.1)
単価 (人・日)	14,409円	14,631円 (+222円)	15,079円 (+448円)

平成デイサービスセンター神奈川（通所介護）【定員：20名】

- 事業報告の概要

- 業績等

- 収益

- サービス提供体制加算IIからサービス提供体制加算Iに変更となり、平均利用単価が増加した。

- 稼働率

- 体調不良により欠席される方が多く、サービス利用回数を増やしたい方を積極的に受け入れ、上半期は稼働率向上した。下半期は給湯設備の故障により、稼働率が低下した。

- 収支改善

- 物価高騰・水道光熱費の高騰に対し、横浜市の物価高騰対策支援を受け、施設内においても節電・節水の啓発を行った。
- 業務内容の見直しを図り、残業代削減に取り組んだ。

- 人材の確保、育成

- オンライン研修を中心に研修に参加した。
- スポーツ・レジャー等を通して、職員交流を図った。

- サービスの質

- レクリエーションの内容を日替わりとし、週に複数回利用されても飽きがこないように工夫した。
- 新型コロナウイルスの5類変更に伴い、外出訓練を再開した。

○ 地域貢献活動

- 地域の社会福祉施設幹事会に出席し、社会福祉協議会主導の近隣団地内の高齢者送迎サービスの計画・運用、実施範囲の追加を検討した。

● 主な指標

※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	80.4%	76.9% (▲3.5%)	78.7% (+1.8%)
平均要介護度	2.0	2.0 (±0)	2.0 (±0)
単価 (人・日)	9,322円	9,564円 (+242円)	9,997円 (+433円)

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ケアホーム板橋（特養）【定員：ユニット-140名 従来型-60名 ショート-20名】

グループホーム板橋【定員：18名】

ケアハウス板橋（都市型軽費老人ホーム）【定員：一般-20名】

その他事業

大谷口地域包括センター（地域包括）

高齢者事業

ケアホーム板橋（特養）【定員：ユニット-140名 従来型-60名 ショート-20名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 本入所
 - 退院調整や新規入所の流れを作ることができ、入所コントロールが円滑に回るようになってきた。
 - 入院が多く、待機者を増やすことが難しかった。
 - ショートステイ
 - 新規問い合わせに対し、迅速に対応することで利用者獲得を積極敵に出来た。
 - ロングショートの獲得を目指していたが、需要がなく獲得に苦戦した。
 - 稼働率
 - 本入所は目標の（ユニット）98.0%に対して94.2%、（従来）99%に対して97.7%の稼働。事業計画の数字に到達出来なかったが、前年度実績より稼働を伸ばすことが出来た。空所後の受け入れ態勢や面談調整がスムーズに行えた。
 - ショートステイは目標92%に対して83.1%の稼働。事業計画の数字には届かなかったが、入退所調整や送迎の工夫を行い前年度より稼働を伸ばすことが出来た。
 - 収支改善
 - ショートを利用しながら入所待機待ちをされている方について、スムーズに本入所への切り替えを行うことで、空床を減らし減収を防いだ。
 - 問い合わせに対し、お待たせすることのないよう必ず対応出来るようにした。
 - 人材の確保、育成
 - 研修の実施
 - 実践に即した体験型研修の実施
 - 外部研修への積極的WEBによる参加と資格取得の支援
 - 無資格者への認知症基礎研修の受講を推進
 - 介護職員の喀痰吸引等研修の受講を推進
 - 介護職員喀痰吸引

- 地域貢献活動
 - 地域貢献活動の充実
 - 新型コロナウイルス感染症の為、地域一体となった行事等の企画、地域行事への参加は思うように実施できなかったが、自治会主催の架け橋まつりや、消防訓練の打ち合わせに参加した。
- 改修工事
 - 特になし

- 主な指標

- 入所（ユニット型） ※（ ）の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	94.1%	94.2% (+0.1%)	97.2% (+3.0%)
平均要介護度	3.7	3.9 (+0.2)	4.0 (+0.1)
単価（人・日）	15,060円	15,306円 (+246円)	15,540円 (+234円)

- 入所（空床型ショート含む）（従来型）

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	95.4%	97.7% (+2.3%)	100.0% (+2.3%)
平均要介護度	3.8	3.9 (+0.1)	3.9 (±0)
単価（人・日）	12,874円	12,912円 (+38円)	13,250円 (+338円)

- ショート

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	77.9%	83.1% (+5.2%)	88.4% (+5.3%)
平均要介護度	3.0	3.0 (±0)	3.0 (±0)
単価（人・日）	15,672円	15,787円 (+115円)	16,020円 (+233円)

グループホーム板橋【定員：18名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 平均要介護度増加により、前年比でわずかに増収
 - 稼働率
 - 稼働率は入床平均17.5人の97.4%

- 収支改善
 - ケアハウスや、他グループホームからの入居にて入居率の大幅な減少を防ぐことが出来た。
 - 地域近隣施設との繋がりを行う事で、入居に結びついた。
- サービスの質
 - 複合施設としての強みを生かす（Ns、PT、OT、ST、RDとの連携）。
 - 平均勤続年数増加により、普段と違う些細な異変に気づく事ができた。
- 人材の確保、育成
 - 認知症スペシャリストの養成
 - 東京都企画の研修への参加
 - 地域密着連絡会主催研修への参加
- 地域貢献活動
 - 特養に準ずる
- 主な指標 ※（ ）の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	98.4%	97.4% (▲1.0%)	100.0% (+2.6%)
平均要介護度	2.8	3.0 (+0.2)	3.1 (+0.1)
単価（人・日）	14,718円	14,915円 (+197円)	14,910円 (▲5円)

ケアハウス板橋（都市型軽費老人ホーム）【定員：一般-20名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 退居後のリカバリーが若干遅かったことと、入院者が出たことで全体の収益は減収した。
 - 稼働率
 - 年間の稼働率は92.7%。退去後からの動きがスムーズに行えておらず稼働率減少に繋がった。
 - 収支改善
 - 空床発生に備え、常時4件の待機に努めたが、退所後の待機者獲得に苦労した。後半は福祉事務所・居宅への営業で徐々に回復した。
 - サービスの質
 - 趣味の充実を図る
 - 映画鑑賞会、食レクを実施した。
 - 毎朝の座って体操を実施しコミュニケーションの場を作った。

- 人材の確保、育成
 - 特養に準ずる。
 - 地域貢献活動
 - 特養に準ずる（特養と協働して行う）。
- 主な指標 ※（ ）の数値は対前年度の増減
 - 一般

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	97.7%	92.7% (▲5.0%)	99.6% (+6.9%)
単価 (人・日)	7,774円	7,951円 (+177円)	7,728円 (▲223円)

その他事業

大谷口地域包括センター（地域包括）

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 職員の退職に伴い総プラン数が減少した。
 - 収支改善
 - 人員配置の適正化、業務の効率化の実施
 - サービスの質
 - 近隣住民や居宅事業所との連携。緊急時の速やかな対応と緊急避難的入所の対応。
 - 人材の確保、育成
 - 包括の事業を理解し、包括の全職員が対応できるように、区主催の研修に参加
 - 地域貢献活動
 - 老人クラブへの出前出張講座の実施。
 - 小地域ケア会議の実施。
- 主な指標 ※（ ）の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
ケアプラン数	3,327名	3,453名 (+126名)	3,660名 (+207名)

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ケアホーム葛飾（特養）【定員：入所-120名 ショート-18名】

高齢者事業

ケアホーム葛飾（特養）【定員：入所-120名 ショート-18名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 申込者への迅速な対応とショートステイから本入所への積極的な切り替え対応、外部発信力を強化し効率的な営業活動から稼働率の改善に繋げ、収益は全体で前年度比0.3%増となった。
 - ショートステイは積極的な営業活動に注力したが、特に下半期の平均稼働率が前年度比▲10.5%と落ち込み、収益は前年度比▲3.8%となった。
 - 稼働率
 - 本入所は2023年度の目標98.0%に対して実績96.4%で未達であった。上半期平均は95.9%、下半期も96.9%と盛り返せず、目標に対して▲1.6%のGAPを生み出す結果となった。
 - ショートステイは2023年度の目標100.0%に対し実績96.0%。本入所要件を満たせない方、医療依存度の高いご利用者様や緊急ショートの受入れを積極的に行ったが目標未達となった。
 - 収支改善
 - 本入所は待機者の確保と入所待機中の方のショートステイでの受入れを促進し、必要に応じて本入所への切り替えを行い稼働率の安定化を図った。
 - ショートステイについては迅速な対応を心掛けるとともに、利用希望に対して原則受入れをお断りしない方針を貫いた。また近隣住民や自治会、及び地域包括支援センターの方々等を招待するイベントの開催を通じて前年度以上に地域との交流を強化し、結果として稼働率向上に寄与した。
 - 引き続き物価高騰の影響を受ける中、事業所内で節約に努め水道光熱費を前年度比▲3.4%まで削減した。人件費は前年度比+2.0%であったが、適性な人員配置を行うことにより各部署間の連携強化、組織体制強化につながり、結果として施設運営力が向上し収支減少を最小限に留めた。
 - サービスの質
 - 昨年度より開始した看取り対応について、より経験を積むことにより更なるサービスの質向上に繋がった。

- コロナ禍での施設運営の経験を踏まえつつ、状況に応じた利用者のQOL向上へ向けた取り組みを推進し、多職種協働に支えられたサービス提供体制の質の向上に繋げた。
 - 人材の確保、育成
 - SNS等を有効活用し当施設にて働くイメージを分かりやすく発信することに注力した。
 - 介護職員初任者研修の受講支援制度や実務者研修の自治体助成金の活用、無資格者への認知症介護基礎研修受講等を積極的に行った。
 - ハラスメントに関する相談窓口担当の周知だけではなく、心の健康づくり計画を策定するなど職員のメンタルヘルス対策を推し進めることにより離職率の低下にも努めた。
 - 地域貢献活動
 - 地域の神社や公園の清掃奉仕活動に参加、また近隣の自治会等の主催するイベントの手伝いに参加するなどより良い関係性の醸成に繋げた。
 - その他
 - 施設行事委員会を新設し、利用者の日常における楽しみの創出に注力した。2023年5月以降、上記実現に向けて様々な季節イベントやレクリエーションの企画・実行を重ね、結果として利用者のQOL改善に繋げた。
- 主な指標

○ 入所

※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	96.2%	96.4% (+0.2%)	96.5% (+0.1%)
平均要介護度	4.0	4.1 (+0.1)	4.0 (▲0.1)
単価 (人・日)	15,260円	15,416円 (+156円)	15,450円 (+34円)

○ ショート

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	100.9%	96.0% (▲4.9%)	96.2% (+0.2%)
平均要介護度	3.3	3.3 (±0)	3.3 (±0)
単価 (人・日)	15,748円	15,944円 (+196円)	16,000円 (+56円)

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ケアホーム住吉（特養）【定員：入所-100名 ショート-20名】

高齢者事業

ケアホーム住吉（特養）【定員：入所-100名 ショート-20名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 本入所は3年目を迎え、前年度より3.9%の稼働率改善はできたが、2023年度は黒字化を達成できなかった。
 - ショートステイは、新規利用者様の獲得に苦戦した時期やコロナの影響によりキャンセルに出て稼働率をあげることができず収益に大きな影響が出た。
 - 稼働率
 - 本入所は目標100%に対して実績99.3%であった。コロナクラスターの影響による入院や年末から年度末にかけて体調不良者による入院等の影響で年間平均の稼働率が下がってしまった。
 - ショートステイは目標90%に対し実績76.7%であった。特養と同様にコロナクラスターの影響によるキャンセル等で稼働率が大幅に下がってしまった。しかし、入所待機者をショートステイで受け入れ調整を進めることができ、稼働率が前年度より改善した。
 - 収支改善
 - 営業等による新規利用者様を獲得。その後面談、入所までの時間をかけないように対応する事で空床を減らすことで収支の改善を図った。
 - ショートステイは緊急受け入れを積極的に実施。また、入所待機者をショートステイ利用につなげ収支の改善を図った。
 - サービスの質
 - 毎月 施設内研修を実施し、職員の介護技術や感染対策、接遇面の向上に資するための勉強会を積極的に開催した。また、感染症や防災については実践に即した体験型研修を実施した。
 - 看取り介護を開始するため、計4回の施設内研修や協力医療機関との調整等に取り組んだ。その結果、2023年度は5名の利用者様について施設内で看取り介護を行った。利用者様、家族様をはじめ、各部署と会議を重ね利用者様、家族様が望む看取りを実現できるように対応した
 - 無資格者への認知症基礎研修を1名受講した
 - 神戸シニアボランティア 4名を受け入れた。週1回程度施設に来ていただき、利用者様の話し相手、レクリエーションの補佐等を実施することによ

り利用者様の満足度向上に繋がた

- 人材の確保、育成
 - 離職予防のため、OJTプログラムを改善し、入職者との関係を密にするとともに細やかな指導を行った
 - 介護、看護、事務、厨房、リハビリ課等の各部署に主任を配置完了。主任を中心に指導体制を整えた。
 - 地域貢献活動
 - 渦が森小学校の総合学習として、4年生4名を受け入れ、高齢者施設についての講義と演習を実施した
 - 毎月、自治会の清掃活動に参加。地域清掃を実施するとともに地域の自治体との今後の連携等について話を進めた
 - 灘のだんじり祭りに協賛し施設敷地内から祭りに参加した。また、定期的な広報誌の作成やホームページの情報更新に努めた。
 - その他
 - コロナ関連の補助金を最大限活用し、感染対策物品を十分に手配し利用者・職員の安心安全の確保に努めた。
- 主な指標

○ 入所

※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	97.1%	99.3% (+2.2%)	99.4% (+0.1%)
平均要介護度	3.7	3.7 (±0)	3.9 (+0.2)
単価 (人・日)	14,789円	14,884円 (+95円)	15,200円 (+316円)

○ ショート

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	65.6%	76.7% (+11.1%)	81.0% (+4.3%)
平均要介護度	3.2	3.4 (+0.2)	3.6 (+0.2)
単価 (人・日)	15,063円	15,117円 (+54円)	15,600円 (+483円)

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

グループホーム渭北【定員：18名】

平成デイサービスセンター渭北（通所介護）【定員：23名】

高齢者事業

グループホーム渭北【定員：18名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 要介護度は微減だが、栄養管理体制加算を年間を通して算定できたことにより単価は微増した。
 - 年間収益に関しても栄養管理体制加算を年間を通して算定できたことにより微増した。
 - 稼働率
 - 年間を通して入退居はあり、退居後の新規受け入れに協力機関との連携を行ったが、前年度より空床の期間を短縮できずに微減した。
 - 収支改善
 - 算定可能な加算を取りこぼしなく算定するよう努めた。
 - 業務の見直しを行い無駄を無くすよう努めた。
 - 年間を通して節電に努めた。
 - サービスの質
 - 新型コロナウイルスの5類移行に伴い、面会の制限を緩和し、感染対策を行った上で直接会う機会を持った。
 - 面会に来られないご家族様に向けて施設での様子がわかるよう写真と代筆でお手紙を書き郵送した。
 - 家族会を開催し、一緒に昼食を食べたり、意見交換を行う場を持った。
 - 人材の確保、育成
 - 施設外勉強会へのzoomでの研修への参加や施設内での勉強会やe-ラーニングの活用により知識の習得に努めた。
 - キャリアアップに向けた研修の受講
 - 地域貢献活動
 - 地域交流
 - 渭北地区の新年互礼会や納涼祭、地区の会議への参加
 - 地域こども園とのお手紙や作品の交換での交流
 - グループホーム入居者様の作品の展示(渭北コミセン) や地域との交流の継続

- 改修工事
 - 3Fの照明のLED電球への交換

- 主な指標

※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	95.8%	95.2% (▲0.6%)	96.7% (+1.5%)
平均要介護度	2.7	2.6 (▲0.1)	2.7 (+0.1)
単価 (人・日)	12,472円	12,569円 (+97円)	12,680円 (+111円)

平成デイサービスセンター渭北（通所介護）【定員：23名】

- 事業報告の概要

- 業績等

- 収益

- 通所型サービス利用者様の減少、要介護新規利用者の増加に伴う要介護比率の増加
- 要介護度が低い新規利用者の増加に伴う平均要介護度の微減
- 通所介護サービス利用者の短時間利用の受け入れ増加に伴う全体の利用単価の微減
- 稼働率3.5%増加に伴う増収

- 稼働率

- 年度末はコロナ感染者の増加に伴い規模を縮小した営業を実施、入院者数が増加したものの、最終的に稼働率は微増

- 収支改善

- キャンセル時の振替や増回の声掛けの継続
- ADL維持等加算の継続した算定への取組み
- 業務の見直しの継続
- 自宅療養をされていた方へのアプローチ

- サービスの質

- 感染対策を取りながらコロナ禍以前のレクリエーションの再開
- 機能訓練を目的とした屋外への散策等の再開
- 運動不足解消のための体操・リハビリの継続
- 重度利用者（胃ろう・バルーン使用）を受け入れる為の研修の実施

- 人材の確保、育成
 - 職員の意識・接遇・技術向上に向けた勉強会（e-ラーニング研修）の継続
 - 職員の意見交換・情報共有の実施（職員会議・書面等）
 - キャリアアップに向けた研修の受講
 - 有給休暇取得がしやすい環境作り

- 地域貢献活動
 - デイ利用者様の作品の展示(滑北コミセン) や介護相談などの地域との交流の継続
 - 滑北地区の新年互礼会や納涼祭、地区の会議への参加
 - 地域こども園とのお手紙や作品の交換での交流

- 改修工事
 - 身障者用トイレの取替工事

- 新型コロナウイルス感染対策
 - 消毒・換気の徹底などの環境整備
 - 送迎車の消毒・利用者様受け入れ時の健康状態の観察強化
 - 利用者様・職員の健康管理・体調不良時に休める体制づくり

● 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	75.9%	79.4% (+3.5%)	80.5% (+1.1%)
平均要介護度	1.7	1.6 (▲0.1)	1.6 (±0)
単価（人・日）	8,068円	8,012円 (▲56円)	8,174円 (162円)

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

グループホーム八万【定員：18名】

八万小規模多機能センター（小規模）【登録定員：29名】

高齢者事業

グループホーム八万【定員：18名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 夏と冬に2回の新型コロナウイルス感染症によるクラスターが発生し、稼働率を大きく低下させてしまった。その為、前年度より2.4%の減収となっている。
 - 稼働率
 - 8月、2月と、新型コロナウイルス感染症によるクラスター発生の為、入院が続き稼働率90%を下回った。体調不良による入院、退居の方も多く、前年度より3.2%も稼働率低下となってしまった。
 - 収支改善
 - 協力医療機関との連携を密に行い、情報の共有にて状態の確認や退院の時期などを早めに報告を受け対応を行った。
 - さまざまな物価高騰に対して施設全体で節電、節約に努めた。
 - サービスの質
 - 新型コロナウイルス感染症の影響で、遠足などの外出は控えていたが、10月より誕生月の方のみ普段から行ってみたいとの希望されるお店に職員と数名で外食に出かけた。
 - 4年ぶりに家族会を開催し、家族様と一緒に食事をしたり、ゲームをして楽しんで頂いた。その後、家族様同士の懇談会を設け交流を図って頂いた。
 - 1F中庭ではプランターに色々な花や夏野菜を植えて毎日成長を楽しみに眺められ、夏野菜は収穫して美味しく召し上がって頂いた。
 - 毎日ラジオ体操やリハビリ体操を行った。また理学療法士の指導の下リハビリを行い、ADLの低下予防を行った。
 - 人材の確保、育成
 - 今年度常勤1名異動、1名退職となったが、引き続き、ハローワーク等に募集を行った。
 - 地域貢献活動
 - 4年ぶりに町民体育祭が開催され、参加させて頂き、町内の方との交流も出来た。年2回の清掃も参加し、交流を深めることが出来た。
 - 災害時の避難場所は継続。

- 主な指標

※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	96.8%	93.6% (▲3.2%)	96.0% (+2.4%)
平均要介護度	2.9	2.7 (▲0.2)	2.9 (+0.2)
単価 (人・日)	12,538円	12,630円 (+92円)	12,700円 (+70円)

八万小規模多機能センター (小規模) 【登録定員：29名】

- 事業報告の概要

- 業績等

- 収益

- 平均介護度は昨年と変わらず1.9であったが、2022年度は要支援29%・要介護71%だったのが、2023年度は要支援17%・要介護83%と要介護者の比率が上がったため一人当たりの単価として19,389円アップし214,170円となった。
- 要介護者の確保、稼働率のアップ等により、当初目標であった年間稼働率93%を達成することができ、年間収益として前年比115.9%に繋げることができた。

- 稼働率

- 年間平均は93.1%と前年度より3.2%アップし、12月～3月にかけては100%の稼働率を保持できた。

- 収支改善

- 病院の医療連携室、徳島市の地域包括支援センター、地域の居宅などとも連携を取り、紹介には迅速に対応していくことで次の紹介に繋がり、利用者の確保をすることができた。利用者が継続的に確保できることで収入も安定し、収益もあがり、赤字の脱却につながった。

- サービスの質

- 職員の入れ替わりがなく、安定しており、利用者様にも安心して利用していただくことができた。
- 小規模の特徴を生かし、通い・泊り・訪問のサービスをその人それぞれのニーズに合わせて提供することで、必要な援助を提供できており、継続的に利用していただけた。

- 地域貢献活動
 - コロナの影響がまだ残っており、行事が完全に再開していないところではあるが、清掃や町内会の定例会などの町内会活動にも積極的に参加し近隣の方との交流を行うことができた。また、運営推進会議も再開し、徳島市、包括支援センター、民生委員等と直接意見交換できる機会が持てるようになった。
- 改修工事等
 - 地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金による非常用自家発電機設備の整備

● 主な指標

※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
登録率	89.9%	93.1% (+3.2%)	99.3% (+6.2%)
平均要介護度	1.9	1.9 (±0)	2.0 (+0.1)
単価 (人・月)	194,781円	214,170円 (+19,389円)	218,852円 (+4,682円)

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

那賀町鷺敷デイサービスセンター（通所介護）【定員：35名】

高齢者事業

那賀町驚敷デイサービスセンター（通所介護）【定員：35名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 介護予防の収入が約24%増加
 - 機能訓練加算の増加、介護職員等ベースアップ加算の年間算定により加算のみでの収益は増加
 - 単価は目標よりわずかだが増加
 - 稼働率
 - 営業活動にも力を入れたがショート・ロングショート・入所・入院の利用者が増えた上に、2月のコロナクラスターにより稼働率が激減も目標だった70%にはとどかなかった。
 - 体験者数は前年度より減少、新規利用者は前年度より増加したが、稼働率増加までには繋がらなかった
 - 収支改善
 - 業務の効率化を図るため、各業務の人員配置の見直し
 - 営業活動や口コミでの利用者確保を実施
 - ミーティングにて備品の使用頻度などの確認・改善
 - 機能訓練加算Iイ・運動機能向上加算を新規に方には算定依頼
 - 加算算定
 - ADL維持加算II算定
 - サービス提供体制強化加算（I）22単位引き続き算定
 - 介護職員等ベースアップ加算
 - サービスの質
 - 利用者目線で残存機能の低下防止
 - 職員の個々の技術面を生かし全員で利用者目線のサービスの提供
 - 利用者のやってみたいことを聞き実現できるように職員で工夫
動物とのふれあい、お出かけしたい、花や野菜の栽培。など
 - 自宅でも継続してできるよう自立支援への取り組み強化
食事の引き善、おやつの片づけ、みじたく。など
 - 人材の確保、育成
 - 勉強会の実施
 - 介護福祉士1名合格

- 地域貢献活動
 - 自立支援ケア会議への参加
 - 地域ケアカンファレンスへ参加
 - ケアホーム・地域の方と一緒に避難訓練
 - ワークショップの開催

- 改修工事
 - 大屋根雨漏り修理

- 新型コロナウイルスへの対応
 - 基本的な感染対策の徹底
 - 職員・利用者の体調管理の把握

- 主な指標

※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	62.9%	62.1% (▲0.8%)	67.3% (+5.2%)
平均要介護度	1.5	1.5 (±0)	1.8 (+0.3)
単価 (人・日)	7,670円	7,917円 (+247円)	7,971円 (+54円)

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

平成デイサービスセンター平田（通所介護）【定員：50名】

平成在宅介護支援センター平田（居宅）

高齢者事業

平成デイサービスセンター平田（通所介護）【定員：50名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 2023年度は4月～8月の間は看護師（機能訓練指導員）が3名で個別機能訓練を実施し個別機能訓練加算（I）イ＝56単位のみでの算定だったが9月より非常勤看護師の入職により個別機能訓練加算（I）ロ＝85単位の算定が可能となり大幅な減収は防げた。
 - 稼働率
 - 平均稼働率92.2%で、体験利用者は41名/年（昨年度比▲4名）、新規利用者は46名/年（昨年度比+4名）を獲得。8月以降稼働率は90%以上をキープすることができた。。
 - 収支改善
 - 大型修繕工事等も少なく、支出減額に繋がれた。
 - サービスの質
 - 1階と3階のフロアを使ってのサービス提供はゆったりとした空間で過ごしていただき、転倒事故防止に繋がっている。
 - 2月より「モフトレ」を導入し、個別機能訓練の運動内容をTV画面を見ながらリハビリを実施しており、個別機能訓練加算を算定していない利用者から「やってみたい」との声があった。「モフトレ」を実施している利用者の家族より、「モフトレ」を始めて歩く姿勢が良くなっていると感謝の意をいただいた。
 - 創作活動等、各利用者に選択していただき余暇の時間は退屈しないようにしている。
 - 同じテーブル内でカードゲームを行ったりと他者交流を図り、好評を得ている
 - ウォーターベット型マッサージ器の導入により、リフレクソロジーが充実し好評を得ている。
 - 大型TVの設置によりYOUTUBEを使っての体操や脳トレを実施し、余暇時間の充足を補っている。
 - 毎月行っている自施設での勉強会には介護・看護の全職員が参加しており、内容を充実させ職員一人一人の質を向上し、施設のレベルアップを図った。
 - 人材の確保、育成
 - 9月に入職した職員に対し、介護技術の研修を職員会議後に行い全職員も参加しレベルアップに繋がれた。
 - 地域貢献活動
 - 岩国市シルバーハウジング委託業務にて住居者の生活相談を行った。

- 改修工事・設置工事
 - 給水管からの漏水工事
 - ボイラー定期点検の実施

- 主な指標

※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	90.5%	92.2% (+1.7%)	93.1% (+0.9%)
平均要介護度	1.7	1.7 (±0)	1.8 (+0.1)
単価 (人・日)	8,509円	8,474円 (▲35円)	8,661円 (+187円)

平成在宅介護支援センター平田（居宅）

- 事業報告の概要

- 業績等

- 収益

- 前年度よりケアプラン数を66件増やすことができた。
特定事業所加算Ⅲの算定を行ったことで約350万円/年の増収となった。

- 収支改善

- 特定事業所加算Ⅲの算定行った事と、常勤が1名入職した事でケアプラン数が増えた。その他の加算（初回加算や入院、退院時）でも取りこぼす事なく算定する事ができた。

- サービスの質

- 週1回の居宅内会議を引き続き行う事で、介護支援専門員のスキルアップにつながった。その他内部研修や外部研修に積極的に参加し多種多様な利用者さまにより良いサービス提供が行われるよう関わりを持つ事ができた。

- 人材の確保、育成

- 常勤介護支援専門員3名（うち主任介護支援専門員1名）
非常勤介護支援専門員2名を配置し業務を遂行した。
事例検討会や地域の研修等に参加し専門的知識、技術の向上を図った。

- 地域貢献活動

- 地域からの相談に応じ、必要に応じて相談援助を行った。

- 主な指標

※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
ケアプラン数	1,652名	1,718名 (+66名)	1,800名 (+82名)
平均要介護度	1.9	1.9 (±0)	2.2 (+0.3)
単価 (人・月)	12,826円	14,450円 (+1624円)	15,114円 (+664円)

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

平成デイサービスセンター黒磯（通所介護）【定員：35名】

平成ホームヘルプステーション黒磯（訪問介護）

高齢者事業

平成デイサービスセンター黒磯（通所介護）【定員：35名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 稼働率の低下に伴い全体的な収入は減収となった。
 - 平均介護度が軽くなり、減収となった。
 - 実人数の減少に伴い、減収となった。
 - 稼働率
 - 年間の中止者数が、新規利用者数を上回り稼働率の低下。
 - 体験人数は前年度を上回っている。
 - 2022年度 体験者数 22名 内新規獲得 19名
 - 2023年度 体験者数 35名 内新規獲得 27名
 - 収支改善
 - 節電、節水による経費削減の継続。
 - サービスの質
 - 体験・新規利用の際の、事前訪問を継続。
 - 自立支援にも力をいれ個人の能力を継続できる様に支援。
 - 個人の希望に沿うサービス内容の提案。
 - 家族負担の軽減が図れるよう、居室内からの送迎実施。
 - 医療ニーズの高い利用者を受け入れる事で、事前に対応方法を周知し対応。
 - 介護・看護の技術面での向上。
 - 地域連携ツールに参加し、他サービスとの連携を強化でき、主治医との直接の情報共有も図れ、体調変化時の早期対応の継続。
 - 人材の確保、育成
 - 定期的な研修会を実施し、職員の知識向上や技術向上を行う事ができた。
 - 定期的な業務内容の見直し、業務負担の偏りがないように変更した。
 - 地域貢献活動
 - 新型コロナウイルス感染予防の為、中止していた保育園慰問（月1回）を再開。
 - 改修工事
 - 機械浴槽の埋め込み。

- 主な指標

※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	70.9%	69.4% (▲1.5%)	82.3% (+12.9%)
平均要介護度	1.9	1.7 (▲0.2)	1.9 (+0.2)
単価 (人・日)	8,487円	8,364円 (▲123円)	8,500円 (+136円)

平成ホームヘルパーステーション黒磯 (訪問介護)

- 事業報告の概要

- 業績等

- 収益

- 前年度に比べ14.7%増収となった。

- 稼働率

- 平均利用回数は前年度より20.3%の増加となった。

- 収支改善

- 訪問ルートの見直しや調整により、新規依頼に極力応じていく事で、実人数と延べ人数の増加に繋げることができた。

- サービスの質

- 居宅やヘルパー間の連携を密にし、利用者の状況やサービス内容等の情報共有に努め、適切なサービス提供、質の向上を図った。

- 人材の確保、育成

- 年間の研修計画に沿って、毎月の研修を全員が参加できるよう複数回実施した。

- 主な指標

※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
延べ人数	3,780名	4,551名 (+771名)	4,636名 (+85名)
平均要介護度	1.9	2.2 (+0.3)	2.2 (±0)
単価 (人・日)	4,420円	4,199円 (▲221円)	4,186名 (▲13円)

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

グループホーム鳴門【定員：18名】

平成デイサービスセンター鳴門（通所介護）【定員：25名】

鳴門小規模多機能センター（小規模）【登録定員：29名】

高齢者事業

グループホーム鳴門【定員：18名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 前年度に比べて稼働率は下がったが、1年通して介護職員等ベースアップ等支援加算算定による収益増加となった
 - 希望者に生活機能向上連携加算算定を実施することができた
 - 稼働率
 - 稼働率は前年度に比べ3.6%減少した
 - 入居者様の入院や退所があったが、すぐの入所に繋がらず空床が続いたため稼働率が減少した
 - 年度後半に入居問い合わせが続けてあり、早急に施設見学対応を行い待機者増加に繋がった
 - 収支改善
 - 業務効率化を進めるため、働きやすい環境への取り組み
 - 備品在庫の把握、無駄がないかの確認・経費削減
 - 必要に応じて介護度の見直しを検討した
 - サービスの質
 - コロナが5類に移行してから家族様の訪問回数も増えたり、ご家族様と一緒に外出する機会も設けることができた
 - 「好きなものを自分で選んで一緒に外食する」入居者様が満足できるサービスを提供することができた
 - 人材の確保、育成
 - 業務内容の見直しを実施することにより、職員の負担軽減
 - 勉強会や研修参加などによる職員の知識、技術向上を行った
 - 地域貢献活動
 - 地蔵盆への参加を行った
 - 地元神社の祭りは天候不良のため中止となったが、入居者様3名と一緒に参加予定であった
 - 介護相談員の訪問が7月より再開となり、毎月1回1時間程度の交流を継続して行っている

- 鳴門市作品展に参加をして10点の作品を展示することができた
- ボランティア活動の再開がなく施設訪問には至らなかった

○ 改修工事

- 地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金による非常用自家発電機設備の整備（2024年2月）
- ナースコール取替工事（2024年3月開始）

● 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	99.2%	95.6% (▲3.6%)	98.0% (+2.4%)
平均要介護度	2.5	2.4 (▲0.1)	2.8 (+0.4)
単価（人・日）	12,238円	12,340円 (+102円)	12,647円 (+307円)

平成デイサービスセンター鳴門（通所介護）【定員：25名】

● 事業報告の概要

○ 業績等

■ 収益

- 稼働率向上により全体収益は前年度比で増加
- ADL維持等加算の算定に伴う増収
- 要介護度上昇に伴う単価の増加

■ 稼働率

- 近隣の他施設が新型コロナウイルスの影響により営業中止となり、他施設から利用者の流出あり稼働率が増加
- 入院や施設入所が重なり稼働率が伸び悩む期間もあったが、昨年度より年間2.7%上昇
- 居宅からの紹介数も増加し、契約率も上昇

■ 収支改善

- キャンセル時の振替徹底
- 営業活動の強化、訪問件数の増加
- 要介護度の上昇
- 業務見直しの継続

- サービスの質
 - 自立支援強化を図り、レクリエーションやイベントの質を向上
 - 職員個々の資格や技術を生かし、利用者目線のサービスを提供
 - 重度利用者の受け入れ実施
 - 人材の確保、育成
 - 定期的に業務内容を見直し、業務の負担を軽減
 - 職員の意識・接遇・技術向上に向けた勉強会の継続
 - 地域貢献活動
 - コロナが第5類になっても地域行事の再開がなく、活動が出来なかった
 - ボランティアの招致も出来なかった
 - 地域包括自立支援ケア会議への参加(4例)
 - 改修工事・備品修理及び購入
 - 非常用自家発電機整備
 - 新型コロナウイルスへの対応
 - 環境整備、感染対策の徹底
 - 職員、利用者の健康管理
- 主な指標 ※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	78.5%	81.2% (+2.7%)	86.0% (+4.8%)
平均要介護度	1.9	2.1 (+0.2)	2.2 (+0.1)
単価 (人・日)	7,722円	7,906円(+184円)	8,100円 (+194円)

鳴門小規模多機能センター（小規模）【登録定員：29名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 前年度より平均介護度が0.2上がった事により、収益増に繋がった。
 - 介護職員等ベースアップ等支援加算の年間算定により、収益増に繋がった。
 - 稼働率
 - 病院や居宅からの受入れも行ったが、重度な方の入院が続き、前年

度に比べて稼働率は伸びなかった。

- 居宅などから、問合せはあったが思うように紹介に至らなかった。
- 収支改善
 - 利用者様の状態に応じて、こまめに介護度の見直しを行った。
 - 物品の在庫管理や使用について、無駄がないように経費削減に努めた。
- サービスの質
 - 通所では、外出行事を再開したり、季節感を感じていただけるような行事の開催に努めた。また、自宅での生活を継続していただくために生活リハビリや自立支援を重視した対応を継続して行った。
 - 訪問では、利用者様、家族様の要望や状況に応じて、訪問回数を増やすなど、柔軟にサービスを提供することができた。
 - 宿泊についても、出来る限りサービスを調整し、対応に繋げることができた。
- 人材の確保、育成
 - 職員の知識、技術向上の為、定期的な勉強会開催や研修への参加を行った。
 - 定期的に業務の見直しを行ったり、相談しやすい雰囲気づくりを行い、働きやすい環境を整えるように努めた。
- 地域貢献活動
 - 婦人会活動への参加を行い、地域交流を深めることが出来た。
 - 地区老人会や消防分団、自治会、婦人会の会長様の自宅を定期的に訪問し、地域活動や現状を直接伺うなどし、交流を図ると共に関係性の維持に努めた。
 - 毎年、開催されている地藏盆や神社のお祭りに参加することができた。また、4年ぶりに再開した地区文化展にも作品を出展するなど、積極的に地域活動に参加することが出来た。

● 主な指標

※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
登録率	58.9%	55.2% (▲3.7%)	63.8% (+8.6%)
平均要介護度	2.1	2.3 (+0.2)	2.5 (+0.2)
単価 (人・月)	179,259円	208,448円 (+29,189円)	220,145円 (+11,697円)

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

平成デイサービスセンター徳島（通所介護）【定員：26名（9月より）】

メディケアハウス平成（有料老人ホーム）【定員：20名】

高齢者事業

平成デイサービスセンター徳島（通所介護）【定員：26名（9月より）】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 全体の収益は稼働率の向上により前年度比で増加
 - 要介護度の上昇に伴い単価が向上
 - 9月より定員増加に伴い増収
 - 稼働率
 - 営業活動の強化により7月頃より稼働率増加。登録者率が100%を超える予定の為、9月に定員を26名に増加。ショートステイや入所、入院の利用者が増えたため一時稼働率は下がったが、12月には再び稼働率増加。年度末にも下がったが、全体的に目標の稼働率に到達できた。
 - 収支改善
 - 営業活動の強化、訪問件数の増加
 - 安定した稼働率の維持の為待機利用者の確保、キャンセル時の振替
 - SNSの開設による広報活動の強化
 - サービスの質
 - 感染症対策を行いながらレクリエーションやイベントの質を維持、満足頂ける介護サービスの提供体制の推進
 - 接遇の意識、技術向上に向け研修会の実施
 - 機能訓練指導員の増加により、自立支援や機能訓練の充実
 - 人材の確保、育成
 - 定期的な業務内容の見直しを行い、業務負担の偏りがないように実施
個人個人に役割を与え、責任感の向上
 - さらなる人材の確保のための稼働率の増加、収支向上
 - 風通しのいい職場となるよう意見交換の場や環境づくり実施
 - 地域貢献活動
 - 地域のこども園との交流
 - その他
 - 新型コロナウイルスへの対応
 - 環境整備、消毒など感染対策の継続
 - 利用者、職員の健康管理

- 主な指標

※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	81.7%	85.3% (+3.6%)	91.9% (+6.6%)
平均要介護度	1.9	2.0 (+0.1)	2.1 (+0.1)
単価 (人・日)	7,657円	7,881円 (+224円)	7,867円 (▲14円)

メディケアハウス平成 (有料老人ホーム) 【定員：20名】

- 事業報告の概要

- 業績等

- 収益

- 稼働率減少に伴い、収益減少

- 稼働率

- 入退居の調整がスムーズに行えず、稼働率減少

- 収支改善

- 待機者確保のための営業活動強化
- 業務内容の効率化、人件費削減

- サービスの質

- 献立どおりではなく、自分が食べたいものを食べられる日を設定

- 人材の確保、育成

- 体調不良時に休みやすい職場環境づくり
- 研修の実施

- 地域貢献活動

- 新型コロナウイルスの影響で、地域行事は中止

- その他

- 感染症対策

- 環境整備、消毒などの感染対策の徹底
- 入居者、職員の健康管理

- 主な指標

※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	99.5%	96.9% (▲2.6%)	99.0% (+2.1%)
単価 (人・日)	2,714円	2,708円 (▲6円)	2,780円 (+72円)

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

訪問ステーションてとと東大阪（訪問看護）

高齢者事業

訪問ステーションてとと東大阪（訪問看護）

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 全体の収益は前年度に比較し減少するも、利益としては増収
 - 看護・リハビリとともにスタッフの入れ替え、及び看護体制強化・再構築のためリハビリスタッフの増員を見合わせたため、全体の収益としては減少
 - ただし、年度中旬～末にかけては看護体制が徐々に整うとともに、新規依頼も増え、結果としてトータル利益は前年比を上回る結果となった
 - 稼働率
 - 看護
 - 上記記載にあるように、年度中旬～末にかけて新規依頼増
 - 年間としては目標稼働率には到達しないが、年度末は単月実績で目標稼働率をクリア
 - リハビリ
 - 年度末にかけてスタッフの急な病欠や、異動が続いたため、在籍スタッフでサービスを回すことを余儀なくされた結果、目標稼働率を大幅に越える状況が継続
 - スタッフの負担、及び稼働率を落ち着けるために、サービスの見直し（回数減、卒業、看護サービスへの転換等）を実施中
 - 業務効率の向上
 - 看護部
 - 管理者だけでなく既存看護スタッフの育成実施
 - 管理者だけでは看護体制の改善及びシステム再構築が難しいと判断
 - 既存看護スタッフ全員一人ひとりの考え方・意識改革を実施することで業務効率を向上
 - 訪問看護師として業務に向かう考え方や姿勢について伝えるために全員と面談を実施
 - また看護部全体に発信する場として、看護師のみで「業務改善会議」を実施し、システム

の再構築を図った

- 結果として、昨年度も課題であった指示系統の整理とともに、業務処理遅延の改善、情報共有を明確化することで連携不足・ミスの改善を図ることができた
- リハビリテーション
 - 看護と同様、一人ひとりの考え方・意識改革を実施
 - 慣れにより怠慢になっている部分や、コメディカルによるバイアスを是正するために定期的な面談を実施
- 訪問人員
 - 看護
 - 2023年度中に看護職員が全体の6割以上には達せず
 - 年度末時点で看護人員は全体の4.5割
 - リハビリ
 - 2023年度中の増減：2名退職+1名入職
- サービスの質の確保・人材育成 ～昨年度から継続実施～
 - 同行訪問・OJTの実施
 - 職員同士で同行訪問を実施し意見交換の場を設けることで多角的な視点からアセスメントを実施
 - スタッフの特性にあわせた教育体制の強化を図った
 - カンファレンスを定期的の実施
 - 問題点の整理とともに、現在のケア内容や目標の確認・検討できる場を設けた
 - また定期以外にも、適宜カンファレンスや実技指導も実施し知識・技術の底上げを図った
 - 事故を未然に防ぐようにKYTを実施
 - ひとりひとりが事故を未然に防ぐという意識付けを実施
 - 今年度の事故について
 - 大きな事故無し
 - リハビリはサービス訪問時における転倒・転落事故は0件
- 職場環境の整備
 - 事業所内ルールを明示
 - 業務を実施する姿勢について、てとてと東大阪でのルールを明確にし、スタッフに明示することで、余分な感情を排除し、業務に集中できる環境を整えた
 - 職員との定期的な面談を実施
 - 頻度：1～2ヶ月に1回実施

- 目的：①目標に対する進捗確認及び適宜協議の場とする
 - ②業務だけでなく、些細な疑問や不安な事、必要に応じてプライベートな悩み等も聴取
 - ③事業所のハード面やソフト面から働きやすい環境にしてい
く
- 地域貢献活動
 - 今年度より布施中学校区の多職種連携事務局に加入
 - 年度末には研修会を開催
 - 校区を越えて医療・介護・福祉事業者にご参加いただき、相互理解を深めるとともに協力して課題を解決していく内容の研修
- 主な指標 ※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
延べ人数	17,672名	16,171名 (▲1,501名)	15,785名 (▲386名)
平均要介護度	2.7	2.6 (▲0.1)	2.7 (+0.1)
単価 (人・日)	4,435円	4,323円 (▲112円)	4,300円 (▲23円)

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

訪問ステーションてとと徳島（訪問看護）

ケアプランセンター てとと徳島（居宅介護支援事業所）

高齢者事業

訪問ステーションてとと徳島（訪問看護）

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - スタッフ数は変わらないが、全体の収益は前年度と比較し、増収。要因として医療保険でのリハビリ訪問回数の増加、難病利用者様の複数回訪問によるもの。また、精神科訪問看護の回数も増加。
 - 常勤換算（前年度比）
 - 看護師：±0名、リハ：±0名
 - 提供回数（前年度比）
 - 看護：介護保険+72回、医療保険▲56回
 - リハ：介護保険▲312回、医療保険+683回
 - 加算取得の増加（前年度比）
 - 緊急時加算：介護保険+39回、医療保険▲56回
 - 特別管理加算：介護保険▲6回、医療保険▲5回
 - 難病等複数回訪問加算：+116回（医療保険のみの加算）
 - 複数名訪問看護加算：+61回（医療保険のみの加算）
 - 精神科訪問看護のサービス提供開始
 - 提供回数：看護師+90回 作業療法士±0回
 - 稼働率
 - 個人スケジュールにおいて訪問場所を固めることにより、移動時間が短縮し、提供回数の増加につながった。
 - ケアマネージャーとの連携を密にし、利用者様に必要な訪問看護サービスの見直しを適時行い、提供回数の増加につながった
 - 収支改善
 - 後方支援病院連携会議にて在宅復帰が可能かどうかの検討、可能な場合の早期の対応(サービス調整)
 - 外部の病院、訪問看護ステーションとの連携
 - サービスの質
 - 重度医療が必要な利用者を積極的に受け入れる体制を構築
 - 小児に対する看護、リハビリの訪問サービス提供
 - ALSなどの難病の利用者様に対する在宅での人工呼吸器など、使用

方法について業者からの講習および実技訓練を実施

- 終末期、緩和に関する講習会への参加
 - 定期カンファレンス、症例検討の実施
 - 利用者様に対するサービス内容の見直し、多職種間での意見交換
- 人材の確保、育成
 - 後方支援病院との連携による人員配置の適正化(昨年度と同様)
 - 研修の実施
 - 個人ごとに必要な知識や技術を検討し、研修を実施
 - 事業所内で発生したインシデント、アクシデントの情報共有および多職種間での意見交換→事故再発防止
- 法人、グループ内の連携
 - 後方支援病院、てととグループ間での会議、連携を実施し、情報共有しながら事業運営を進めた
- 地域貢献活動
 - 患者様や家族様に対して、看護師の視点から生活習慣や健康管理、食事や栄養に関するアドバイスを行った。
- その他
 - 手洗い指導、ガウン装着訓練などの感染症対策を実施

● 主な指標

※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
延べ人数	18,271名	18,486名 (+215名)	19,824名 (1,338名)
平均要介護度	2.1	1.6 (▲0.5)	2.1 (+0.5)
単価 (人・日)	5,161円	5,388円 (+227円)	5,400円 (+12円)

ケアプランセンター てとと徳島 (居宅)

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 担当数の減少により前年度比で減収
 - 短期入所療養介護の利用者数が増加し、短期入所生活介護の利用者様が減少

- 稼働率
 - スタッフ1名の介護休暇により、新規利用者数が減少
 - 入院から施設入所の利用者様が増加したことによる減少
 - 収支改善
 - 後方支援病院、在宅診療医、地域包括支援センターとの連携強化
 - 初期加算算定のため、新規利用者の獲得
 - サービスの質
 - 利用者宅への訪問で状態をアセスメントし、人間関係の構築を徹底
 - 事業所内外での多職種間の情報共有
 - 利用者の意見をよく聞き課題分析の視点を高める自己学習を意識
 - 人材の確保、育成
 - 研修の実施
 - 年間研修計画を立案し、計画に沿って研修→現場で活用
 - グループ内の居宅支援事業所間で症例検討会を実施(昨年度同様)
 - スタッフ間での連携
 - 業務代行、スタッフ間の協力、アドバイス
 - 法人、グループ内の連携
 - グループの居宅支援事業所と連携し、利用者様についての問題点の解決、業務内容についての相談等を実施
 - てとてとグループでの会議にて、業務改善等について相談
 - 地域貢献活動
 - 地域の民生委員への挨拶
- 主な指標 ※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
ケアプラン数	799名	777名 (▲22名)	793名 (+16名)
平均要介護度	2.0	2.1 (+0.1)	2.2 (+0.1)
単価 (人・月)	12,108円	12,192円 (+84円)	12,223円 (+31円)

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

障がい者事業

OUCHI CAFE・KITCHEN（就労継続支援B型）【定員：20名】

OUCHI HOME（共同生活援助）【定員：14名】

西新井まちの相談室（特定相談支援事業）

障がい者事業

OUCHI CAFE・KITCHEN（就労継続支援B型）【定員：20名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 2023年度は前年度に要件（6カ月の就労継続）に達する就労定着者が1名いたため、就労移行支援体制加算（I）を算定することができた。
 - 2022年度と比較して稼働率は低下したが、就労移行支援体制加算（I）の算定と欠席時対応加算、初期加算など適切な加算の算定により収益に関しては前年比増となった。
 - 稼働率
 - 土曜日の利用者数が極端に少なく、稼働率を下げる一つの要因であったと考えられるが、「土曜日のゆったりした雰囲気がい」と通所する利用者もいたため、あえて利用者数を少なくしたままにしていた面もあった。
 - 曜日ごとに定員以上の利用者確保しキャンセルから稼働率が低下することに対応していたが、それでも通所の不安定さが目立ち、稼働率の低下につながってしまった。
 - 収支改善
 - 利用者の欠席に対する対応強化を継続し、欠席時対応加算の適切な算定を行った。
 - CAFE・KITCHENで使う食材の管理や発注を一元化することで無駄を省き、食材にかかる経費の節減を行った。
 - サービスの質
 - 利用者の仕事を15時までに短縮し、15時以降は利用者同士や職員とのコミュニケーションにあてる時間としたことで、これまで以上に利用者同士のコミュニケーションも増え、利用者と職員が話しやすい環境づくりを行うこともできた。
 - 利用者との定期的な面談を継続することで、利用者個々の能力やニーズに合わせた仕事の提供につなげることができた。
 - 利用者同士のトラブルには迅速に対応し、通所しやすい環境づくりに努めた。
 - グループ内のお中元やお歳暮、大内病院デイケアへのデザート提供を引き続き行い、工賃の維持向上を図った。

- 家族会開催（6月、12月）。利用者のご家族を対象に開催。日頃なかなか知りえないご家庭での様子や、OUCHIの取り組みについて情報交換。職員とご家族が直接顔を合わせる機会となった。
- 人材の確保、育成
 - 施設内研修や勉強会を定期的実施。
 - 職員との個別面談を実施。日頃の困りごとや目標などの聞き取りを行い、職場環境の改善に努めた。
 - 職員同士がお互いの業務を理解し協力し合う環境づくりを目標に、CAFE・KITCHENでの職員のローテーションを一部開始した。
- 法人、グループ内の連携
 - 大内病院の連絡会議にて、CAFE・KITCHENの稼働や空きの状況、活動内容等について共有。
 - 大内病院デイケアへのデザート提供の継続。
 - ココロネ板橋、ココロネ淡路、PALETTEと共同でグループ内へお中元やお歳暮の提供を実施。
 - 月1回程度のペースで、ケアホーム葛飾、ケアホーム足立でのパンの出張販売を実施。
 - 年2回（11月、3月）、大内病院の高齢者グループホームこもれびの家族会にスペースを提供。家族会後に、食事会を開催。当日は利用者も配膳などを行った。
- 地域貢献活動
 - 「OUCHI Do曜日」（4月、9月）。地域に想いを寄せて活動している方々に出店していただき、「地域とのつながりを広げる」ことを目指してイベントを開催。当日は利用者も参加し、地域の方々との交流の場となった。
 - 「くるりPJ」（5月、12月）。1個200円で事前に購入していただき、児童養護施設にOUCHIのパンやデザートをお届けする企画。
 - 「多世代交流祭り」（11月）。地域包括支援センター西新井主催の祭りに参加。当日はCAFEを開放してドリンクやアイスなどの提供を行い、地域の方々にOUCHIを知っていただくよい機会となった。利用者もドリンク作りやお客様対応を行いつつ、祭りを楽しんでいた。
 - 「ビシャバシャアート展」開催（1/22～2/23）。足立区内で児童養護施設を中心に活動している団体の企画に、場所をお貸しする形で協力。期間中の土曜日にオープンデイを1日設け、アート展に来たお客様にドリンクなどの提供を行った。
 - 「足立区こころの健康フェスティバル」（3月）。区内の就労継続支援B型事業所、GHなどが一堂に会して販売や発表などを行うイベント。2023年度

は5年ぶりに対面での開催となり、OUCHIからも焼き菓子やチョコレートの販売で参加。当日は利用者もブースに立ち、販売を行った。

- 改修工事
 - CAFE多目的トイレへのおむつ交換台設置
 - CAFEトイレ前倉庫の扉改修工事
- 新型コロナウイルスへの対応
 - 新型コロナが5類に移行したことでこれまでの規制は緩和となったが、職員、利用者への標準予防策、環境整備など基本的な感染対策は継続した。
- 主な指標 ※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	82.7%	76.1% (▲6.6%)	86.5% (+10.4%)
単価 (人・日)	8,229円	9,244円 (+1,015円)	13,000円 (+3,756円)

OUCHI HOME (共同生活援助) 【定員：14名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - HOME、かりんともに稼働率が上がり、増収となった。
 - 精神障害者地域移行特別加算の対象者の入居が増えたこと、HOME入居者の入院はあったもののかりん入居者は入院せずに生活することができていたことにより、稼働率、単価ともに増加した。
 - 稼働率
 - かりんは、入居者の入院がなく、稼働率の上昇につながった。
 - かりんは、1名退居で2名入居。入居2名のうち1名は、HOMEからの転居。
 - HOMEは入院も少なく、入居者が比較的安定していたことが稼働率の安定の一つの要因となった。
 - HOMEは、女性3名、男性2名が退居し、女性2名、男性2名が入居した。
 - 大内病院との情報共有や地域の特定相談支援事業所への空室状況の共有等を行い、退居から次の方の入居までの期間を短くすることで稼働率の低下を防ぐよう努めた。
 - 収支改善
 - 特定相談支援事業所や保健センターなどへの空室状況の連絡等を継

続的に行い、待機者の確保を図った。

- 入居者の入院時の加算や退居による空室発生時の空室補償など、適切な加算算定等を行うことで、減収を抑えた。
- サービスの質
 - 日頃のコミュニケーションや入居者への定期的な面談を通して個々のニーズを聞き取り、それぞれの入居者に合わせた生活支援の提供を心がけた。
 - 定期的なスタッフミーティングで入居者の現状を共有し、支援内容等についての検討を行った。
 - 月1回の食事会を再開。配食や弁当などが多い入居者に、手作りの食事を提供した。
 - 施設内の環境整備、季節ごとの飾り物などを積極的に進め、入居者にとって心地よい環境作りに努めた。
- 人材の確保、育成
 - 施設内研修や勉強会を定期的に実施。
 - 外部研修への積極的な参加。
 - 職員に対する個別の面談を行い、日々の業務や入居者への支援などでの困りごとに対応。
- 法人、グループ内の連携
 - 大内病院の連絡会議にて、HOME・かりんの稼働状況等について共有。
 - OUCHI CAFE・KITCHENで行っている交流会への参加。グループホーム入居者同士のみならず、就労B型利用者との交流の場となった。
- 地域貢献活動
 - OUCHI CAFEで開催された「OUCHI Do曜日」に、HOME・かりんからも参加。職員は接客などを通して地域の方々との交流を深め、入居者は「地域の住民」として参加することでこの地域で生活していることを実感する機会となった。
 - 町会への参加により、地域に根差した施設であることを地域住民の皆様に理解していただいた。
- 改修工事
 - かりん2号室窓・扉修繕
 - HOME防犯カメラ修理
 - HOME居室クリーニング
 - HOME玄関錠シリンダー交換
- 新型コロナウイルスへの対応
 - 新型コロナの5類移行に伴い、これまでの制限を緩和。ダイニングの開放により、とくに女性ユニットでは入居者同士のコミュニケーションが増えた

ように感じられた。職員、利用者への標準予防策、環境整備など基本的な感染対策は継続した。

- 主な指標

※ () の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	75.1%	87.8% (+12.7%)	100.0% (+12.2%)
単価 (人・日)	4,042円	4,784円 (+742円)	4,800円 (+16円)

西新井まちの相談室（特定相談支援事業）

- 事業報告の概要

- 業績等

- 収益・稼働率

- 6月に開設して新規利用者は毎月一定人数入り年度末には登録人数が目標の60名に達したが月のモニタリング実施者が少なく収益、稼働率が目標値を下回ってしまった。

- 収支改善

- 事業所や保健センターなどへ訪問時に営業を実施して新規利用者の獲得に努めた。
- 利用受け入れを足立区在住者だけでなく近隣区在住で足立区内の福祉サービス利用者にも範囲を拡大し新規利用者の獲得に努めた。

- サービスの質

- 関係機関と連絡を取り合い利用者の状態の把握と共有に努めた。
- 利用者との面談の中で希望する生活などを聴取し関係機関と連携して支援を実施。

- 人材の確保、育成

- 外部の研修会などに積極的に参加
- OUCHIの勉強会に参加

- 法人、グループ内の連携

- 大内病院、OUCHIから新規利用者の情報を定期的にもらい受け入れ実施。
- 利用者にはOUCHIや大内病院の在宅部門の紹介や利用の支援を実施
- OUCHIの交流会や家族会などに参加し相談支援実施。

- 地域貢献活動

- 「OUCHI Do曜日」（9月）。「地域とのつながりを広げる」ことを目指しているイベントに参加。地域の方々との交流実施。

- 「多世代交流祭り」（11月）。地域包括支援センター西新井主催の祭りに参加。
 - 足立区江北保健センター主催の地区事業所間の連絡会で「作業所などで実施できる健康体操」の講師実施
 - 「足立区こころの健康フェスティバル」（3月）にOUCHIが出店し、利用者支援や販売の手伝い実施。
- 改修工事
 - なし。
- 新型コロナウイルスへの対応
 - 標準予防対策を継続的に実施。
- 主な指標 ※2023年6月に開設（ ）の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
支援者数（人・月）	－	25名	37名（+12名）
単価（人・月）	－	15,363円	15,661円（+298円）

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

岩国市岩国第三地域包括支援センター（地域包括）

高齢者事業

岩国市岩国第三地域包括支援センター（地域包括）

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 岩国市委託料は昨年度と同様。介護予防支援事業所としての給付件数は、要支援2の認定者数増加により増加。収益は認められておらず、毎年岩国市への返還金が生じている。
 - 包括的支援事業
 - 総合相談支援対応として年間延べ4,777件の相談に対応。
 - 権利擁護業務として成年後見等の相談や虐待受付対応を実施。
 - 包括的継続的マネジメント業務としてケアマネからの相談対応。（延べ169件）
 - 認知症総合支援事業や地域ケア会議開催等を実施。
 - 一般介護予防事業として担当区域内の通いの場18箇所で講話や体力測定を実施。
 - 通津地区の自治会で介護予防教室を開催し、住民主体の「通いの場」が出来た。
 - 介護予防・日常生活支援総合事業
 - 介護予防に関する啓発や介護予防ケアマネジメントを実施。
 - サービスの質
 - 多種多様な相談に面接技術を駆使して懇切丁寧に対応した。
 - 人材の確保、育成
 - 主任ケアマネ1名、社会福祉士2名、保健師1名の配置で運営。外部内部の研修に参加しスキルアップを図った。
 - 新型コロナウイルス等感染症への対応
 - 基本的な感染症対策を徹底した。業務継続計画に基づき研修、訓練を実施。
- 主な指標

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
ケアプラン数	1,890名	1,994名 (+104名)	2,100名 (+106名)

2024年6月4日

2023年度 事業報告書

社会福祉法人平成記念会

サポートハウス ココロネ住吉

1. 2023年度 事業報告の概要

概要

- 地域の医療機関や福祉事業所等に、広報を行い、積極的に連携を図った。
- 短期入所利用者に対し、長期入所の案内等を行ったことで、前向きな利用検討に繋がった。
- 社会参加活動の一環として外出イベントを実施。利用者ご本人も笑顔が増え、参加された家族にもとても喜んでいただけた。施設内でも毎月イベントを実施した。

経営指標

- 全体

※ []は前年比

	2022年度	2023年度	2024年度 目標	要点
- 医業収益	<u>352百万円</u>	744百万円 [+ 392百万円]	982百万円 [+ 238百万円]	
- 医業費用	<u>902百万円</u>	817百万円 [▲ 85百万円]	923百万円 [+ 106百万円]	
- 医業利益	<u>▲ 549百万円</u>	▲ 73百万円 [+ 476百万円]	59百万円 [+132百万円]	
- 経常利益	<u>▲ 554百万円</u>	▲ 71百万円 [+ 483百万円]	52百万円 [+ 123百万円]	

- 病院

	2022年度	2023年度	2024年度 目標	要点
- 入院 全稼働率	<u>16.1%</u>	36.7% [+ 20.6%]	48.3% [+ 11.6%]	
- 外来 患者延数	<u>7,367名</u>	9,022名 [+ 22.5%]	9,744名 [+ 8.0%]	2022年6月開設
患者数/日	<u>30.2名</u>	30.7名 [+ 1.7%]	33.3名 [+ 8.5%]	

- その他（年間の稼働率、利用者延数）

	2022年度	2023年度	2024年度 目標	(要点)
- 生活介護	<u>581名</u>	1,030名 [+ 77.3%]	1,535名 [+ 49.0%]	2022年6月開設
- 放課後等デイサービス	<u>273名</u>	592名 [+ 116.8%]	962名 [+ 62.5%]	2022年6月開設

その他

- 補助金 5,915,040円
 - 令和5年度 兵庫県 原油価格・物価高騰対策一時支援金 4,640,000円
 - 令和5年度 神戸市 物価高騰対策福祉施設等緊急支援給付金 1,275,040円

2. 入院部門

a. 全体：100床

i. 概要

- 障害者施設等入院基本料 7対1
- 療養介護（障害者総合支援法）
- 医療型障害児入所施設（児童福祉法）
- 短期入所サービス（障害者総合支援法）
- 前年度より入所者獲得に苦慮していたが、下期は1フロア満床に向け入所者数を増やすことができた。

ii. 主な指標

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
- 稼働率	16.1%	36.7% [+ 20.6%]	48.3% [+ 11.6%]
- 単価（人・日）	45,772円	47,296円 [+ 1,524円]	47,261円 [▲ 35円]
- 収益	268百万円	633百万円 [+ 136.1%]	833百万円 [+ 31.5%]

★ 稼働率 = 長期入所と短期で計算

★ 収益 = 長期入所と短期（診療報酬は除く）で計算

3. 外来部門

a. 全体

i. 概要

- 地域の医療機関や行政機関等への広報活動等を実施し、患者獲得に繋げた。

ii. 主な指標

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
- 外来患者延数	<u>7,367名</u>	9,022名 [+22.5%]	9,744名 [+8.0%]
- 外来患者数/日	<u>30.2名</u>	30.7名 [+1.7%]	33.3名 [+8.5%]
- 単価	<u>7,749円</u>	8,438円 [+689円]	9,719円 [+1,281円]
- 収益	<u>61百万円</u>	84百万円 [+38.0%]	95百万円 [+13.1%]

★ 収益 = 外来と短期（診療報酬を含む）で計算

b. 診療科別

小児科

i. 概要

- 地域の特別支援学校への広報活動等を行った。

ii. 主な指標

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
- 外来患者延数	<u>771名</u>	1,027名 [+33.2%]	1,313名 [+27.8%]
- 外来患者数/日	<u>3.1名</u>	3.5名 [+12.9%]	4.5名 [+28.6%]

訪問診療・往診

i. 概要

- ケアホーム住吉への訪問診療、往診を定期的に行った。

ii. 主な指標

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
- 訪問診療・往診 延数	1,584名	1,858名 [+17.2%]	2,090名 [+12.5%]
- 患者数/日	6.4名	6.3名 [▲1.6%]	7.1名 [+12.7%]

リハビリテーション科

i. 概要

- 地域の療育センター等への広報活動等を行った。

ii. 主な指標

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
- 外来患者延数	5,012名	6,137名 [+22.4%]	6,341名 [+3.3%]
- 外来患者数/日	20.5名	20.9名 [+1.9%]	21.7名 [+3.8%]

4. 付帯事業

ココロネリビング（生活介護）【20名】

- i. 概要
 - 近隣の特別支援学校卒業予定の生徒を、卒業前より実習利用で積極的に受け入れ、利用者獲得につなげた。
- ii. 主な指標

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
- 利用者延数	581名	1,030名 [+77.3%]	1,535名 [+49.0%]
- 利用者数/日	2.4名	4.2名 [+75.0%]	6.3名 [+50.0%]
- 収益	9百万円	21百万円 [+133.3%]	34百万円 [+61.9%]

ココロネクラブ（放課後等デイサービス）【5名】

- i. 概要
 - 児童発達管理責任者の配置が出来ず、減算の状態が続いていたが、資格取得等により充足することができた。
 - 年度初めは利用者獲得に苦慮したが、近隣の特別支援学校の生徒を中心に利用が増え、また、家族との意見交換等を重ね、利用回数増等により年度末にはほぼ満床稼働となった。
- ii. 主な指標

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
- 利用者延数	273名	592名 [+116.8%]	962名 [+62.5%]
- 利用者数/日	1.3名	2.4名 [+84.6%]	4.0名 [+66.7%]
- 収益	6百万円	13百万円 [+116.6%]	20百万円 [+53.8%]

以上